

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報11

1993年度

1995年2月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報11

1993年度

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



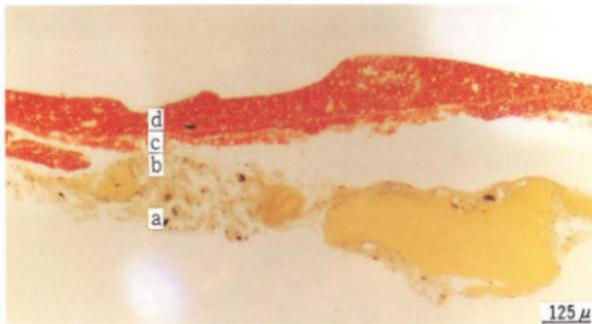
弥生時代後期の土壤と遺物出土状態（津島岡大10次調査）



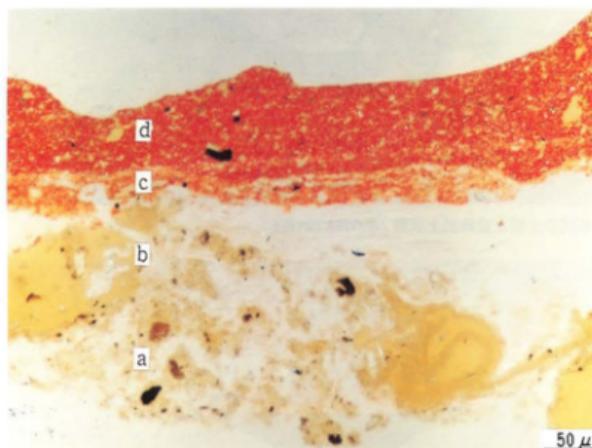
弥生時代後期と古墳時代後半の土器（津島岡大10次調査）

巻頭カラー図版 2

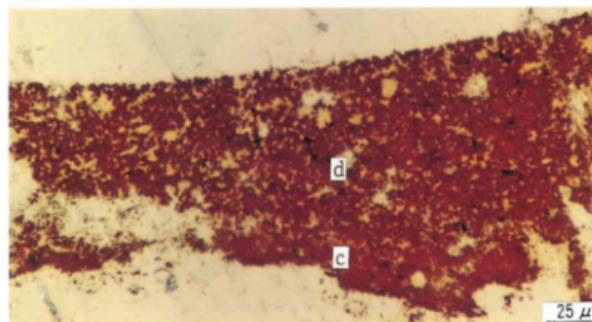
A



B



C



津島岡大（5次調査）遺跡出土の堅櫛の塗装膜断面写真（岡田論文）

## 序

1993年度は保健管理センターと情報処理センターの建設にともなう事前の発掘調査を行いました。保健管理センターの調査は前年度からの継続でしたが、弥生時代末から古墳時代初め頃の井戸2基、古墳時代後半期の壁面に竈をもつ堅穴住居など、多數の遺構・遺物を確認することができました。津島キャンパスのこの時期の遺跡では比較的水田遺構が多いのですが、今回格的な集落域を明らかにすることができます。津島岡人遺跡の全体構成を考えるうえで、また今後の発掘調査の指針を得るうえで重要な意義をもつこととなりました。

1988年度に実施した大学院自然科学研究科棟建設地での発掘調査の成果を報告第7冊として刊行し、縄文時代後・晩期のドングリ類貯蔵穴のありかたと当該期土器様相の実態を詳細に検討したこと、西日本の縄文時代研究に寄与するものがありました。

こうした発掘調査の実施や報告書刊行にあたっては、当埋蔵文化財調査研究センター運営委員会から適宜指導・助言を賜っているところですが、1987年のセンター発足に至るまでの過程で中心的な役割を担われ、その後も運営委員として当センターの事業推進に援助を惜しまれなかった元教養部長定兼範明教授が、本年度をもって定年退官をされられました。ご尽力にたいし、あらためてお礼申し上げたいと思います。

常のことではありますが、事務局および発掘調査や報告書刊行にご協力いただいた関係部局、さらに資料分析等でご協力頼った本学内外の研究機関・研究者各位に厚くお礼申し上げる次第です。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稻 田 孝 司



## 例　　言

- 1 本年報は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1993年4月1日から1994年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成果をまとめたものである。
- 2 人学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
  - 1) 津島地区では、国土座標第5座標系(X=-144,500, Y=-37,000)を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形地区割である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に三分する(図14~15)。
  - 2) 鹿田地区では、国上座標第5座標系(X=-149,800, Y=-37,400)を起点とし、座標軸をN15°Eに振ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割は一辺5mの方形を用いている(図16)。
  - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は真北を、他は磁北を用いている。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合にはそのまま踏襲する。津島地区構内については、全域を「津島岡大遺跡」と総称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘調査など」に分類したものは、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で、試掘調査から連続して調査したもの、試掘調査を経ずに調査したものは、「試掘調査など」に分類する。
- 5 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、詳細は正式報告に依って頂きたい。「試掘調査など」については、本年報での記述を正式報告にかえる。
- 6 表に記載した所属部局は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 7 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 8 本文は、阿部秀郎・松木武彦・山本悦世が分担執筆し、執筆者名は末尾に記した。また鹿田地区と津島地区出土の鉄製品と漆製品の分析を岡田文男氏に依頼した附録としてその成果を掲載した。
- 9 編集は稻田孝司センター長の指導のもとに、阿部が担当した。
- 10 本年報に掲載の津島地区の地形図は岡山市発行の1/2500の地図を複製したものである。
- 11 調査・整理において以下の方々にご援助・教示を頂いた。記して感謝申し上げる。

石川日出志、犬飼徹夫、遠藤七都子、星崎　由、大塚達朗、河田文男、木下哲夫、鷹野正也、鈴木茂之、鈴木正博、高橋　慶、出宮徳尚、戸沢充則、中沢道彦、中村五郎、栗岡　寛、根木　修、能城裕一、平井　勝、久島潤雄、山田昌久

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報11 1993年度

## 目 次

第1章 1993年度岡山大学構内遺跡調査報告	1
1 調査の概要	1
2 発掘調査	1
① 津島岡大遺跡第10次調査<保健管理センター予定地>	1
② 津島岡人遺跡第11次調査<情報処理センター予定地>	9
3 試掘調査	14
4 立会調査	16
① 津島地区	16
② 鹿田地区	17
第2章 1993年度普及・研究・資料整理活動	24
1 資料整理	24
2 分析依頼	24
3 冊行物	24
4 調査員の活動	24
5 日誌抄	26
6 1993年度までの遺物保管状況	27
第3章 1993年度活動のまとめ	30
附 表	31
岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	40
1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定	40
2 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規定	41
3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規定	41
1993年度埋蔵文化財調査研究センター組織	43
1 センター組織一覧	43
2 管理委員会	43
3 運営委員会	44
附 錄	45

## 挿 図 日 次

図1	津島岡大遺跡第10次調査 調査区位置図	1
図2	津島岡大遺跡第10次調査 土層断面図	2
図3	津島岡人遺跡第10次調査 7層上面遺構平面図	3
図4	津島岡人遺跡第10次調査 8～9層上面遺構平面図	4
図5	津島岡大遺跡第10次調査 出土遺物	7
図6	津島岡大遺跡第11次調査 調査区位置とグリッド配置図	9
図7	津島岡大遺跡第11次調査 標準土層堆積図	10
図8	津島岡大遺跡第11次調査 12～13層上面における遺構分布	12
図9	津島岡大遺跡第11次調査 S I - 02竪穴状遺構と周辺出土遺物	12
図10	試掘地点位置図	14
図11	試掘調査土層断面図	15
図12	調査33の位置(1/2500)と上層柱状略図	17
図13	津島地区全体図	20
図14	津島北地区	21
図15	津島南地区	22
図16	鹿田地区全体図	23
図17	津島岡大遺跡第5次調査出土の堅櫛とその出土状態	45
図18	鹿田遺跡第3次調査出土の刀子とその出土状態	46

## 写 真 目 次

写真 1 津島岡大遺跡第10次調査	土壤 6 (炉状遺構)	3
写真 2 津島岡大遺跡第10次調査	8～9層上面遺構(南から)	5
写真 3 津島岡大遺跡第10次調査	住居 1 (南東から)	5
写真 4 津島岡大遺跡第10次調査	住居 1 土器出土状況	5
写真 5 津島岡大遺跡第10次調査	井戸 1 (南から)	5
写真 6 津島岡大遺跡第10次調査	土壤 10a 土器出土状況	6
写真 7 津島岡大遺跡第10次調査	土壤 17 土器出土状況	6
写真 8 津島岡大遺跡第11次調査	2層上面畝状痕跡完掘状況(北から)	10
写真 9 津島岡大遺跡第11次調査	11層上面水田遺構完掘状況(北から)	10
写真 10 津島岡大遺跡第11次調査	11～13層の遺構完掘状況(北から)	10

## 表 目 次

表 1 1993年度調査一覧	18
表 2 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要	28
附表 1 1982年度以前の構内主要調査(1980～1982)	31
附表 2 1992年度以前の構内主要調査(1983～1992)	31
附表 2 (1) 発掘調査	31
附表 2 (2) 試掘調査	33
附表 2 (3) 立会調査	34
附表 3 埋蔵文化財調査室刊行物	39
附表 4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物	39

## 第1章 1993年度岡山大学構内遺跡調査報告

### 1 調査の概要

当センターにおいては、大学構内における掘削をともなう工事に際して、事務局施設部企画課を通じて事務手続きを行ったうえで、発掘調査・試掘調査・立会調査にかけて調査を実施している。

これまでのところ、その調査の対象は津島地区と鹿田地区とが中心になっている。とくに、鹿田地区は周知の遺跡（鹿田遺跡）として、掘削を行う工事に際し、届け出を提出した上で対応を行っている。また、津島地区においても、新たな遺跡の確認が進んでいることから、遺跡の名称を「津島岡大遺跡」と総称し、届け出の有無にかかわらず、少なくとも立会調査を実施している。

1993年度は発掘調査2件（津島地区2件）、立会調査32件（津島地区16件、鹿田地区6件）を実施した。そのうち、発掘調査については本章でその概要を述べ、立会調査の詳細については表1に示す。

（阿部）

### 2 発掘調査

#### ①津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター予定地、津島南地区BB～BC・10～11区）

##### 調査の経過（図1・15）

この調査は、保健管理センター新館に伴い、1992年2月～翌1993年7月までの予定で実施されたものである。そのうち1992年度分の調査結果については、本年報10（1992年度）すでに概述したので、ここでは1993年度分の調査で明らかになったことの概略を報告する。

1993年度分の調査は4月17日に開始し、記録的な多雨に悩まされながらも7月31日に終了した。調査面積は約400m<sup>2</sup>で、常時2名の調査員が担当した。

##### 層序と地形（図2）

本調査区の層序は、埋立土・基礎枠を含

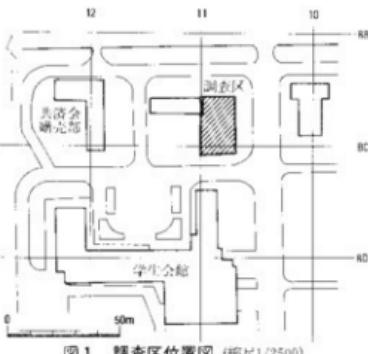


図1 調査区位置図 (縮尺1/2500)

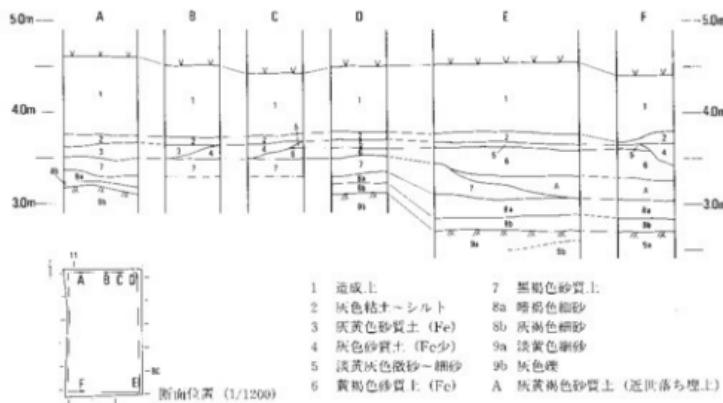


図2 土層断面図

めて大略9層からなる。そのうち江戸～明治時代に当たる6層以上については1992年度に調査を完了しており、詳細は本年報10(1992年度)を参照されたい。

1993年度に調査の対象となったのは7層以下である。7層以下の各層は、いずれも弥生～古墳時代の遺物や有機質を多量に含む黒褐色～灰褐色の砂質土で、近世層の6層との境界はきわめて明瞭な不整合をなし、近世の削平・造成がこの層にまで及んだ状況が見て取れる。したがって、この調査区では近世層の直下が弥生～古墳時代の包含層で、古代～中世の各時期の層は、近世段階の造成で削平されていると考えられる。

弥生～古墳時代の包含層である7層以下は深くなるほど色調が淡く、砂質が強まる傾向が認められる。すなわち、やや粘性を帯びた黒褐色砂質土層の7層、暗褐色細砂の8a層、灰褐色細砂の8b層に分けうるが、全般に漸移的な変化であって各層の層界は明瞭でない。9層は基盤と考えられる無遺物層で、淡黄～褐色細砂の9a層とさらに下の灰色砾層の9b層からなり、場所によっては包含層の直下に9b層が露出するなど、上面にはかなりの高低差があるが、総じて南へいくほど低くなる。

#### 検出遺構(図3・4, 写真1～7)

##### (1) 7層上面(図3)

近世以後の造成・耕作土をすべて取り去った7層上面では、主として古代以降に属すると考えられる落ち・溝・廻物などの遺構と、時期不明の柱状遺構・焼土土壙・焼土土面などを検出した。これらのうちでもっとも新しいと考えられるのは調査区南端部の落ちで、肩は東西方向にやや弧を描くように走り、深さは約0.4mある。中世の溝を切り、近世の6層によって最終的に

埋められている。

中世の溝はほぼ正しく南北方位を指し、残存幅1.5~2m、深さ30~35cmを測る。南端部を上述の下がりによって切られる。埋土中から少量ながら13世紀代前後に位置づけられる吉備系土器器鉢の底部片が出土した。

古代にまで遡る可能性が高い遺構(図3)としては、まず調査区北半部を中心として、東西方向、および北北西~南南東方向に一定の間隔をおいて走る溝群が認められる。深さ5cm前後、幅0.3m内外のごく浅い溝で、耕作の痕跡であろうか。切合関係からみて東西方向のものが新しいようであるが、形状や埋土に大きな違いはなく、全体としては同じ段階に属するものとみられる。また、この溝群と同じ検出レベルで、埋土の特徴も類似するビット群が、

調査区北東部を中心に検出され、建物2棟を抽出できた。東西方向の溝が耕作痕だとすれば、それらと同時併存であると考えるのは不自然であるが、検出レベルや埋土の類似、方向の同一性などから、大まかにみて同じ時代に属するものと考えられよう。ビット内ならびにその周辺から古代後半(平安時代)に属する黒色土器鉢などの断片が出土していることから、これらはその時期の遺構である可能性が高い。

炉状遺構・焼土壙・焼土面は、調査区

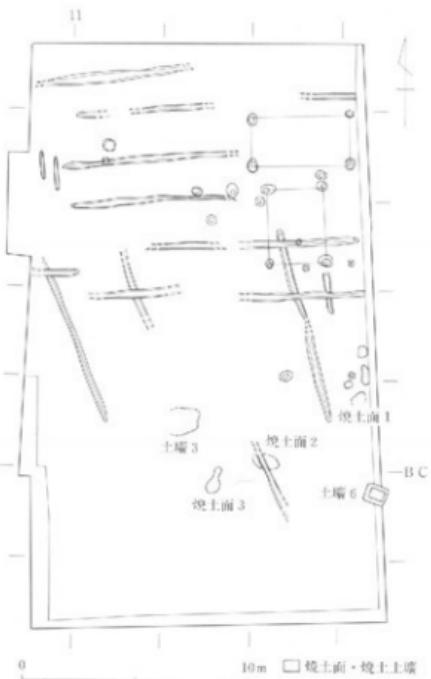


図3 7層上面遺構平面図 (1/250)

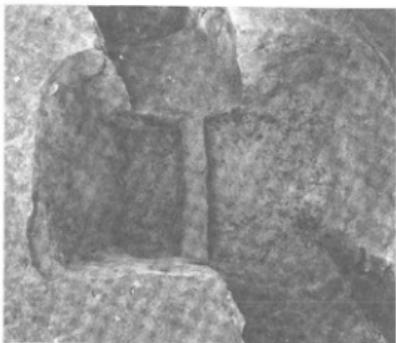


写真1 土壙6(炉状遺構)

の南東部を中心に検出された。そのうち土壌6（写真1）は、1.0m×0.8mの整った長方形を呈し、検出面からの深さ0.3mのレベルに厚さ約5cmの木炭層があり、それよりも上部の壁は熱によって硬く赤変していた。土壌の底は木炭層の下約10cmにあり、さらにその下部にピット状の掘り込みがあるが、これはこの土壌と一体のものか否かは不明である。土壌3は長径1.4mの不整四角形の掘り込みで、埋土中層に焼土塊が集中するが、壁は焼けていない。焼土面は大きく見て3箇所あり、東端の焼上面1ではその直上で鉄釘を検出した。これらの炉状遺構・焼土土壌・焼土面は検出レベルがほぼ一致しており、大略同じ段階のものである可能性が高い。焼土面2の埋没後に上述の耕作痕と思われる溝が形成されていることから、この溝を古代後半のものとみてよければ、それよりも古い時期に属すると考えられるが、これ以外に年代を確定する材料としては、焼土面1に伴う鉄釘の形状の検討結果によるほかはない。なお、周辺からは数個の鉄錠が出土しており、今後の分析によって、これらの遺構の性格を判断する一助としたい。

#### (2) 8～9層上面（図4）

7層は有機質を含む黒褐色土層で、上述の、比較的新しい時期の所産と思われる明褐色の埋土をもつ遺構以外は、正確な検出がほとんど不可能であると判断した。したがって、適宜掘り下げを行いつつ精査を重ねることにより、以下に述べる弥生～古墳時代の遺構の大半は8層ないし9層で検出される結果となった（図4、写真2）。

まず、古墳時代後半の遺構としては、調査区北東部に竪穴式住居2棟がある。住居2は検出面からの深さ約0.2m、長径約6m、短径約4.5mの隅丸長方形を呈する。柱穴は、南東部ではかろうじて認められたが、北西部は床面が9b層の礫となっており、検出できなかった。北東辺中央に竪状の掘り込みと後方へ伸びる

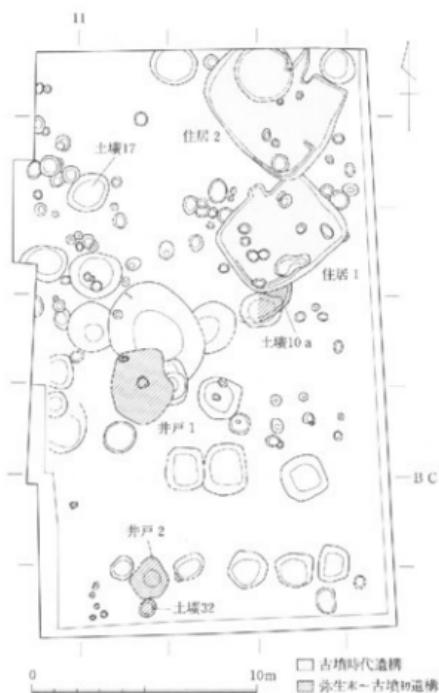


図4 8～9層上面遺構平面図 (1/250)

煙道状の溝があり、焼土・炭が濃密に認められた。ただし、粘土などで構築された本格的な竈ではなく、壁面を掘り窪め、袖部を削り残して整形した程度の簡素な施設である。床面中央部にも地床炉状の明確な焼土面が検出された。床面に伴う遺物はないが、埋土中から6世紀末～7世紀初頭の須恵器片、土師質甕（または瓶）の把手などが出土しており、住居2はこの時期に属する可能性が高い。これに南接する住居1（写真3）は、検出面からの深さ約0.2m、長径5m、短径約4.5mの隅丸長方形で、4本の柱穴をもち、掘り換えの痕跡が認められる。この住居にも北西辺中央を掘り窪めた程度の竈状遺構があり、そこから土師質甕1個体前後と焼土・炭が出土した。他の遺物としては、いずれも最初の床面から5cm前後浮いた状態で、5世紀末頃の須恵器杯・高杯・蓋・甕等および土師質甕（写真4、図5-1～5）がある。この遺物出土レベルは、平面としては明確に認識し得なかったが、廃絶時の床面を反映している可能性がある。

弥生時代末～古墳時代初頭の遺構は、調査区中央部より南に広がる。井戸1（写真5）は検出面での長径3.3m、深さ2.5mを測る。掘り方は上半部が漏斗状、下半部は筒状を呈し、木製井戸枠をもつ。井戸枠は、丸太を縱割りしてくり貫いた部材を4つ組み合せたものであるが、部材の幅や径がまちまちであるために互いに密着せず、ずれや土砂の崩落を防ぐために、要所



写真2 8～9層上面遺構(南から)

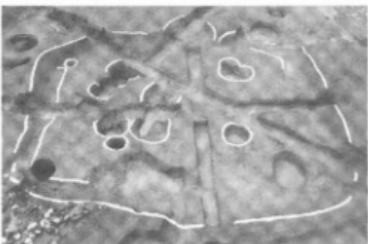


写真3 住居1(南東から)



写真4 住居1土器出土状況

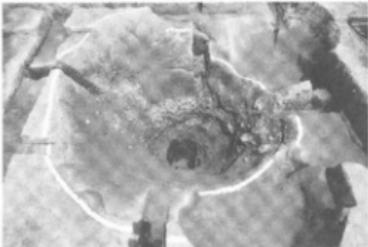


写真5 井戸1(南から)

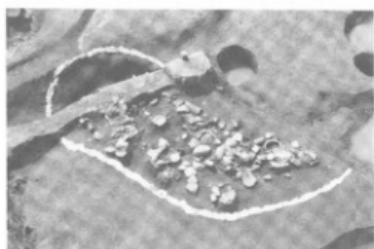


写真6 土壙10a土器出土状況



写真7 土壙17土器出土状況

に丸木杭2本と木製案（テーブル）を転用した裏込め材を配している。使用時の漸次堆積を示す埋土下層中からは甕等の土器断片が、埋立土を示す埋土上層の直下からは、おそらく廃棄時の儀礼に関わると考えられる完形の小型短頸甕が出土した。

井戸2は検出面での径約1.4m、深さ1.1mの素掘りの井戸である。周囲にはこの時期の土器が多數検出されたが、遺構として把握したのは完形の甕を出した土壙32のみである。その他、調査区中央部に、この時期の土器片が密集する浅い土壙10a（写真6）があったが、前述の古墳時代住居や中世溝によって大きく削られていた。

弥生時代後期初頭の遺構は、大半が土壙

（写真7）とピットで、調査区のほぼ全面

に広がる。土壙は40基近くあり、直径・深さとも数10cmのピット状の小型のものから、直径4m、深さ1mにもおよぶ大型のものまである。またその形状には、ほぼ円形のものと、隅丸方形のものがある。調査区北東隅・中央西寄り・中央南東寄り・南辺沿いの4箇所程度に分かれて群在する傾向をみせるが、中央西寄りのものの一部に前期末の土器片を含むものがあるほかは、大半が後期初頭の单一時期に属する。土器の出土量は土壙により多寡があって、中央西寄りの大型で円形のものは概して多量の土器が一括配置あるいは廃棄された状況をみせる場合が多いのに対し、南寄りの隅丸方形のものは概して土器の量が少ない。土壙の用途・機能の特定は困難であるが、貯蔵施設、廃棄場、水溜めなどが考えられる。出土土器には甕・甕のほか高杯・器台・ミニチュア甕など祭祀的色彩の濃いものも目立つ。

弥生時代前中期の土器片は、調査区の西半分に散見され、とくに西辺に近づくほど多い傾向がある。西辺の土壙のいくつかはこの時期の遺構である可能性もある。これらの点から判断して、調査区西方にこの時期の遺構が広がる公算が強い。

#### 出土遺物（図5）

生活址の調査ということで、土器類を中心に多量の遺物が出土した。これらのうちもっとも多量を占めるのが土壙群から出土した弥生土器である（6～8）。大半は弥生時代後期初頭に属するもので、甕・壺・鉢・高杯・器台など各種がある。なかでも、土壙17（写真7）出土



番号	種類・形状	寸法 (cm)		特徴・手法の付箇所	色 質	施 土
		一辺	幅			
1	瓶型盃 杯形	12.5	5.0	大井掛・面文付外縁ヘラゲズミ、[切妻]2方向。その外は内井掛・面文付外縁ヘラゲズミ。	淡灰～淡緑灰色	細砂少、無ね粘土
2	瓶型盃 杯形	12.8	-	大井掛・面文付外縁ヘラゲズミ、[切妻]2方向。その外は内井掛・面文付外縁ヘラゲズミ。	淡灰～淡緑灰色	細砂少、粘土
3	瓶型盃 杯形	10.8	8.8	9.5	淡青灰色	細砂少、ごく精良
4	瓶型盃 風呂	9.9	-	10.5 壺内径 10.2cm、周溝下半を同様ヘラゲズミ。周溝下部に小欠窓、削落し丁寧かぶり。	細灰白色	細砂少、極ね精良
5	土器 瓢	-	-	壺内径 9.7cm、外蓋タクナリタクナリ。風呂のため底面八角、且歯縫溝は内外面に同じく見ゆる。	淡灰～淡赤褐色	細砂少で均質
6	器皿十脚 鍋	18.8	7.9	7.5	灰砂褐色	細一粒砂含み、無い
7	器皿十脚 鍋	26.0	16.9	22.9	灰砂褐色	細砂少、無ね粘土
8	器皿十脚 鍋	9.0	5.1	19.9	灰砂褐色	細一粒砂含み、無い

図5 出土遺物 (1~5: 住居址 1、 6~8: 土壌)

の、赤色顔料で文様を施した尖形の細頸壺（8）などは注目すべき資料である。また、祭祀的色彩が強い「ニチュア」と考えられる小型の壺・甕、あるいは分銅形土製品なども含まれる。さらに少量であるが、弥生時代前中期の土器も出土した。多条のヘラ描き沈線をもつ壺などが中心である。井戸および土壇に作られた弥生時代末～古墳時代初頭の土器もまとまった資料であり、この中には山陰など他地域の系統を引く土器も含まれるようである。また、古墳時代後半の住居1（守貞3）からは、須恵器と土師器が共伴出土した（1～5）。平安時代、鎌倉時代および江戸時代以降の土器片も、わずかながら発見された。

石器類は、製品はほとんどないが、サスカイトの剝片が調査区各所から見つかっている。木製品には、井戸枠と、その部材として転用された案（テーブル）がある。また、時期不明ではあるが、鉄に関連する作業の遺物として、鉄滓と鉄釘が発見された。

#### 調査成果

本調査地点は、津島地区の中でも遺構・遺物の密度が高い区域に当たっており、発掘調査によって多くの知見が得られた。弥生時代後期初頭を中心とする土壇群は、この場所が住居のある集落の中心部からはやや外側の貯蔵あるいは廃棄のためのエリアであったことを示す。弥生時代末～古墳時代初頭には、井戸の存在から、この場所がかなり集落の中核部に近い部分に当たっていたと推測される。古墳時代後半期には、住居2棟が発見され、この場所が集落の中核域となつたことが知られる。以上のように、津島地区内でも比較的高燥なこの場所が、遅くとも弥生時代前中期以後、何度かの空白期間はあるが、ほぼ継続して人々の生活の場となつたことが判明した。また、古墳時代以降、おそらく古代以前と考えられる時期に属する製鉄もしくは鍛冶関連の遺構・遺物は、この場所で鉄に関わる生産活動が行われていた痕跡を示すものとして注目される。

遺物では、弥生時代後期初頭、弥生時代末～古墳時代初頭、古墳時代後半の各時期の土器がそれれまとった資料であり、多くが同時使用を示す一括の状態で得られたため、土器の組み合わせや型式変化を明らかにする上でさわめて貴重である。とくに弥生後期初頭の土器は量が豊富で、その出土状況も土壇内に廃棄または安置された様子を示しており、当時の祭祀行為を復元する手がかりとなりうる。また、弥生時代末～古墳時代初頭の井戸から発見された木製井戸枠と案（テーブル）は、当時の木工技術を知るために重要な資料であろう。

以上のように、本次の発掘調査は津島地区では初めての生活域の調査であり、既往の調査で確認された水田域の状況なども総合することによって、当時の生活領域やその歴史的な変遷過程の復元が可能となろう。土器などの遺物も豊富に得られ、今後の研究におおいに寄与するものと期待される。

（松木）

## ②津島岡大遺跡第11次調査（情報処理センター予定地、津島北地区）

## 調査の経過

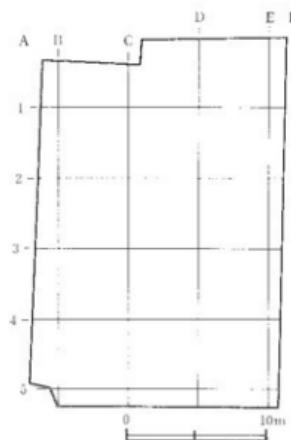
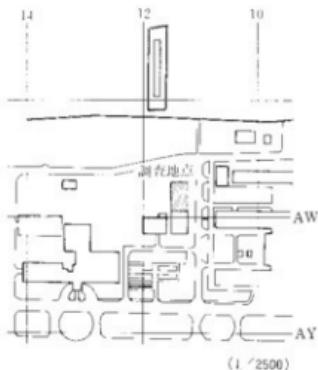


図6 調査区位置とグリッド配置図

本調査は情報処理センター増築に伴って実施されたものである。調査地点は埋蔵文化財調査研究センターの北側隣接地点（図6）で、1987年に本調査に先立つて行われた試掘調査では、古代、中世から弥生時代にいたる水田土壙の堆積と若干の遺物が検出された。また地表下2.3mには津島地区で特徴的に認められる弥生時代前期から紀文時代後、晩期に堆積したと考えられる黒色土が確認されており、当該期の遺構、遺物の検出も期待された。

発掘は調査区域内に4mのグリッドを設定し、各ラインの東西列にアラビア数字を南北列にアルファベットの大文字を用いて各グリッドを呼称した。また調査区のほぼ中央で直交する上層観察用のベルトを残し、土層堆積状況を確認しながら掘り下げを行い、水田土壙から出土した遺物は層毎に、黒色土を振り込んだ遺構およびその周辺から出土した遺物については原位置と層序を記録して取り上げた。

調査は9月14日より開始され、1月11日に黒色土下面の精査を行いほぼ当初の調査期間内で終了した。調査面積は640m<sup>2</sup>であり、調査員2名が担当した。

## 層序と地形

土層は調査終了面にあたる黒色土上部までを12枚に分層して調査をおこなった（図7）。これらのなかで遺構の確認された面は近世にあたる3層上面の畑の歓（写真8）と10層（写真9）、11層上面の古墳、弥生時代の水田および、11層上面の弥生後期と同層中位面（縄文時代後期）である。11層上面と11層中位面に確認された遺構は、堅穴住居とそれに類する居住遺構および土坑である（写真10）。11層の堆積は古代から近代にかけては緩やかに北側に傾斜しており、9層以下の古墳時代以前では調査区の南東コーナー付近を最高所にして、北西方に向かって緩やかに下る。大きくみれば北側に低くなる地形は、試掘や立会い調査等で図書館北方に推定されている源地へとつなぐものと思



写真8 2層上面歛状痕跡完掘状況（北から）



写真9 11層上面水田遺構完掘状況（北から）



写真10 11～13層の遺構完掘状況（北から）

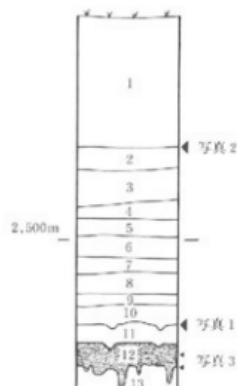


図7 標準土層堆積図

土層説明

- 1 未成土
- 2 青灰色粘質土
- 3 疏黃褐色微砂土
- 4 疏青灰色粘質土
- 5 “ ” ( $4 > 5$  厘米)
- 6 疏黃灰色砂質土
- 7 疏青灰色粘質土
- 8 疏灰褐色砂質土
- 9 疏灰色砂質土
- 10 疏灰色粘質土
- 11 黒色土
- 12 疏黃褐色粘質土
- 13 黃褐色砂質土

われる。この推測が正しければ、本地点は沖積地の微高地の最高所より幾分低い位置に当たることになろう。

#### 検出された遺構と遺物

3層上面では南北方向に走る畝状の痕跡と拳大の礫を充填した階段状の遺構が方位を同じくして検出された。これらは津島岡大遺跡の各地点において検出されている耕作面と同様のものであろう。ただし階段の構築は初見であり、これらは耕地の区画や低地部における水はけなど、当地点の地理的特性を反映したものかもしれない。

4層から8層は近世から古墳時代にかけての遺物をごく少量ふくみ、酸化鉄やマンガンの沈着面を形成する水田土屨であるが、面的な精査により水田畦畔などの遺構を確認することはできなかった。9層は砂質に富む層で、洪水などによる自然堆積層であり、直下に本層に覆われた水田畦畔が比較的良好な状態で検出された（写真9）。水田面は調査区の南東コーナー付近を最高所として北西に緩く下る傾斜を示し、基本的には南北方向に長軸をもつ小区画の構成をもつ。水田面から出土した僅かな遺物から判断する限り、構築時期は古墳時代と推定される。また本層下の11層上面にも弥生時代後期の遺物を出土する。ほぼ同様の構造をもつ水田遺構が検出されている。この水田面には調査区中央に不整形の窪みが検出され、内部の土層が水性の堆積構造をもつことから、池状の窪地と推定された。

11層は直上の水田遺構の構築により上半部は削平され、上面から風化の著しい弥生前期の土器が僅かに出土した。11層上面の畦畔と耕作面の除去後に全面の遺構確認をおこなったが、この時点で調査区北側で、長椭円形の落ち込みを確認した。位置は11層上面の池状の凹地にあたる部分で、土層の堆積を確認しながら注意深く掘り下げた結果、東西に長軸をもつ椭円形のプランが確認され、床面の中央部に火床面が発見された。遺物は縄文土器の細片を混じえるが、弥生中期の破片が見られ、層位的にも弥生時代以降のものと判断された。構築面は弥生後期の水田面の構築により失われているが、覆土の観察から11層より上層に本来の構築面が存在したことが窺われる。覆土は池状の凹地の形成により薄いが、焼土粒や木炭粒を多く含み、プランの確認は比較的容易であった。また床面の一部分からは炭化材が検出されたが、住居の部材か否かは判断できなかった。この部分の床面は部分的に焼け込んでいたが、柱材などの検出もなく、焼失住居とは俄に判断できない。

上層の水田面における池状の凹地と、この遺構が位置を同じくするのは、遺構の埋没途中における凹地がそのまま水を蓄え、水田のなかに取り込まれたものと推測すると、遺構の時期や新旧関係から矛盾はない。

またさらに、11層の調査中に本層上面に構築面をもつ椭円形のプランが確認された。北半分は調査区外にのびるが、この遺構の覆土中位と床面付近からは縄文時代後期の土器片とサヌカ

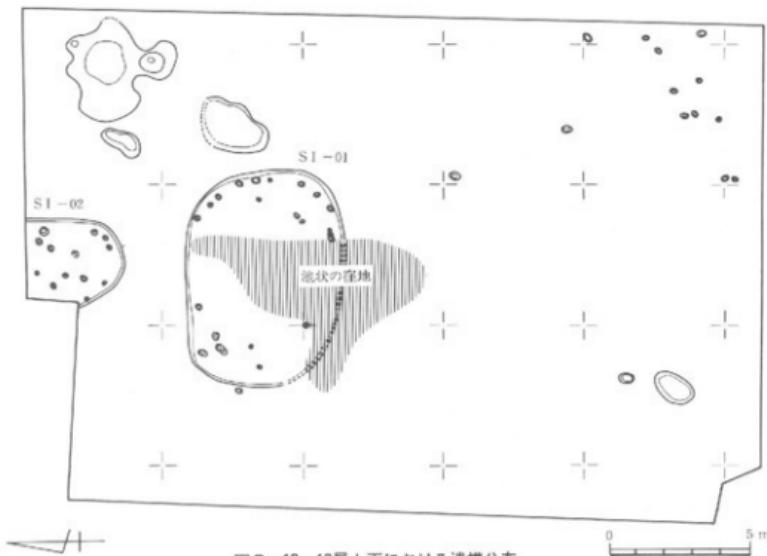


図8 12~13層上面における遺構分布

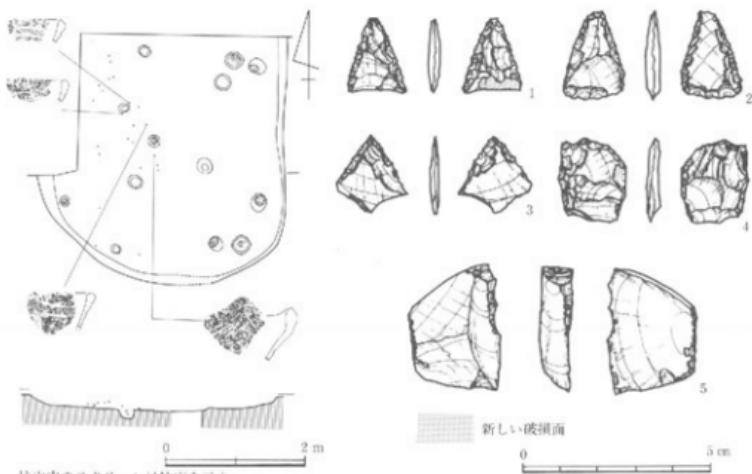


図9 SI-02竪穴状遺構と周辺出土遺物

イトの剝片が出土した。先述したように、本来の11層上面は水田構築のために掘削されており、遺構は残存する11層最上面から確認できた。しかし遺構の覆土中には本来の黒色土の上位部分と考えられる黒味の強い土層が堆積することや、覆土の上質がいずれも11、12層を基調としており、弥生時代以降の土層を混じえない点は、本遺構の時期を層位的な観点から示唆するであろう。11層中からはこの遺構の位置する調査区の北側より、石器とその未製品や剝片、残核が比較的多く出土した。こうした状況から、本地点の11層中位面付近あるいは以下は、繩文時代後期の生活面に相当し、この面を中心にして石器製作を伴う居住活動が展開されたものと推測できる。

この他に12層上面で多数の落ち込みを確認した。これらは半截して覆土や形状を観察したが、大半が植物等による搅乱であり、人工的なものと考えられるものは、柱穴状のピット群と5基の土坑のみである。これらはいずれも覆土の状態から11層に構築面をもつものと判断されたが、僅かな土器片以外に出土遺物はなかった。

#### 調査の成果

今回の調査で検出された遺構や遺物は多くはないが、遺構の性格から本地点における土地利用形態が繩文時代後期から弥生時代中期にかけての居住域から、それ以降の水田などの生産域へと変化することが推定され、沖積平野における徹高地の利用形態を考える際の興味深い知見を得ることができた。また11層（黒色土）中における繩文時代の遺構と遺物のあり方は、当該期の居住地点の性格を知る上で興味深い。サスカイトの微小な剝片や石器未製品の分布状態は、この地点における石器製作を示唆するが、粘質の強い土層中に含まれていたこれらの遺物がどれくらいの回収率を示すのか、その検出率は他の調査事例から推しても高くはないであろう。今後の更なる調査方法の開拓により微細な遺物やより多くの情報の回収に努める必要がある。

なお、ここで調査成果としてまとめた内容は、基礎的な整理の終了した段階での概要であり、今後の分析によりその内容に一部変更が生ずる可能性もある。詳細な事実関係は正式報告に譲りたい。

(阿部)

注(1)「岡山大学構内遺跡調査研究年報」5, 1987, 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

(2)「岡山大学構内遺跡調査研究年報」10, 1993, 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

### 3 試掘調査

今年度の岡山大学構内の試掘調査は1件であった。場所は津島南地区、農学部農場である。以下に述べる調査により、津島岡大遺跡の最西部付近の様相について、重要な知見を得ることができた。

#### ①農学部汎用耕地設置工事に伴う試掘調査（津島南地区 B E・B F 22・23区）

##### 調査の経過

農学部農場に汎用耕地（温室）の設置が計画されたことに伴って、埋蔵文化財の有無を確認し、発掘調査の必要性や方法を検討する目的で、試掘調査を行った。すでに、この箇所の北西約150mの国際交流会館<sup>(1)</sup>、南方約100mの農学部農場施設の新宮に伴う試掘・立会調査の結果、一帯が低湿地であったことが判明していた一方、東方約200mにある農学部遺伝子実験施設地点では、1991年の発掘調査（津島岡大遺跡第8次調査）<sup>(2)</sup>において遺構や遺物が発見され、生活・生産域が広がっていた状況が明らかになった。したがって、それらのちょうど中間に当たるこの場所は、津島岡大遺跡の生活・生産域の範囲とその最西部の様相を把握するうえで重要な箇所であるとの予測がなされた。

温室の設置が計画された地点は、農場施設の建物の北方約100mの箇所で、工事以前は水田として使われていた（図10・15）。敷地は、東西約56m、南北約46mの長方形の範囲である。面積が広いために当初は数ヶ所の試掘場の設定を予定したが、敷地の北東隅および南西隅の2ヶ所の掘削・調査によって、土層や埋蔵文化財の状況についての把握は十分であると判断されたので、結果としては、この2ヶ所の精査にとどめた。調査方法は、約2×2m、深さ1.5mの大きさに機械掘削し、その断面を精査・記録するという方法を取った。調査は1993年12月6日～7日にかけて行い、調査員1名が担当した。

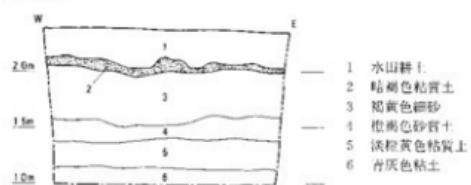
##### 層序（図11）

調査地の標高は、水田面で約2.4m、耕作部分で約3.2mを測る。予定地北東端にTP1、南西端にTP2の、2箇所の試掘場を設定した。TP2は耕作部分から水田面にかけて設定したもので、1層は水田耕作土、2層は耕作土を設営した際の盛土とみられる。3層は津島地区のほぼ全域に広がる青灰色粘土で、明治時代の耕作土であろう。4～6層も津島地区的調査で近世の耕作土として捉えられている層に対応するものと考えられ、鉄分の沈着をみる。このうち4～5層は耕作部分の直下にしかみられず、現在の農場水出が、近



図10 試掘地点位置図 (1/2500)

(TP 1)



(TP 2)

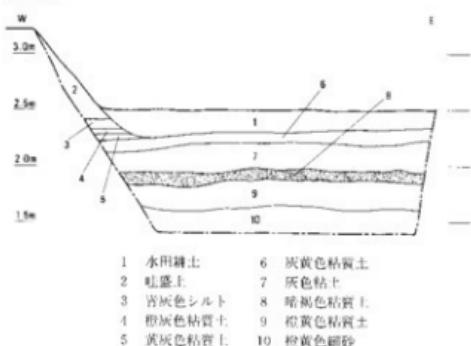


図11 試掘調査土層断面図 (1/50)

TP 1でも、状況はほぼ同じである。ここでは現在の水田耕作土である1層の直下に、TP 1の8層に相当する2の暗褐色粘質土層がみられ、耕作によって深く削り込まれている状況が見て取れる。その下にはベースと考えられる3層の褐色細砂があり、以下4層の橙褐色砂質土、5層の淡黄褐色粘質土、6層の青灰色粘土と、粘質とグライ化の度合いを強めながら水性堆積が続く。

断面や揚土内の精査にもかかわらず、遺構・遺物は検出できなかった。なお、両試掘場とも、1日で底に数cmの深さに溜まる程度の湧水がみられた。

### まとめ

農学部農場から国際交流会館にかけての付近は、津島地区内の微高地部分に特徴的な、いわゆる黒色土の形成が認められないことから、一帯が低湿地であったと考えられてきた。しかし、今回の調査地点では、その黒色土に類似した暗褐色粘質土層が認められ、これまでに調査された箇所とは様相を異にしている。

この近隣で黒色土の存在が確認されているのは、東方約200mの農学部遺伝子実験施設地点で、1991年の発掘調査時に、縄文後期～弥生後期、および古代を中心とした遺構・遺物が発見

世層を大きく削り込む形で耕作されていることが明らかになった。7の灰色粘土層は、津島地区で中世層とされるものに似る。その下の8層は暗褐色粘質土で、いわゆる黒色土と呼ばれる縄文晩期～弥生前期の堆積土に類似した特徴をみせる。7層との層界はきわめて明瞭で、8層の上に不整合の状態で7層が堆積したかのような状況を示す。9層は津島地区の比較的高い部分の基盤層としてよくみられる橙黄色粘質土、10層はそれよりも砂質を帯びた層で、ともにベースとみなされよう。

北東隅の水田中に設定した

され、比較的安定した微高地状の部分に該期の生活域の一部が及んでいた状況が明らかになった。その調査区の西半から始まる微高地斜面で確認された黒色土と、今回の試掘箇所の黒褐色粘質土とが一連のものであるかどうかは不明であるが、前者がさらに西にかけて広がる状況をみせること、あるいは両者のレベル差などから判断して、その可能性は低くないといえよう。ベースの高さは遺伝子実験施設が2.2m、今回の試掘地点が1.8~2.1mと、西に向けてやや低くなっていると考えられるが大差はない。さらに西方の岡縣交流会館地点では、ベースは1.8~2.0m弱、南方の農場施設地点でも詳細は不明であるがほぼ同程度の高さとみられ、これも大差はないがさらに少し低くなっている状況が読み取れる。以上の諸点から、本地点は、農場以西に広がっているとみられる低湿地の中でもわずかに高い部分と判断され、遺伝子実験施設地点から舌状に西に伸びた微高地の末端に当たる可能性も想定されよう。

遺構・遺物が認められないことから、本地点は、津島岡人遺跡の恒常的な生活・生産域からはやや外れた場所に当たると推定される。ただし、黒褐色粘質土の直上に、なにか不整合ともいえる形で、中世に属する灰色粘質土の厚い水平堆積が載る状況は注目され、人為的な造成の痕跡である可能性も考えなければならない。とくに、西方の岡縣交流会館地点で、ほぼ阿ビンペルで中世と考えられる上器片の出土が確認されている点、これより東方の津島地区一帯で中世にかなり大規模な造成が行われたことが判明している点などを考慮すると、中世の造成客土が、この西方低湿地帯に及んでいた状況も想定しておく必要があろう。

(松木)

注（1）「岡山大学構内遺跡調査研究年報」6、1989年、29~30頁

（2）「岡山大学構内遺跡調査研究年報」1、1985年、25~26頁

（3）「岡山大学構内遺跡調査研究年報」9、1992年、1~6頁

（4）ただし近隣の遺伝子実験施設地点の発掘調査（注3）では、この辺に相当する可能性がある辺で織文後期土器片の出土をみる。

#### 4 立会調査

##### ①津島地区

本年度の津島地区の立会調査は、事業別にみて16件、総計34箇所にのぼる。水銀灯やバックネット基礎などのように、寸法は小さくても深い掘削をする工事が相次ぎ、結果として、かなり深い部分の層位についての知見を得ることになった調査が多かった。

まず調査16~19は、本年度前半に発掘調査を完了した保健管理センター用地に接する部分で、同様の層位が確認され、発掘調査範囲外へも高い部分が広がっていることが判明した。

調査23では、黒色土あるいはその2次堆積土と考えられる暗灰褐色土が調査壙の北半に認められ、それを切る形で南半部に向かって落ちる堆積が認められた。この層は土層関係からみて古代に属する可能性が高く、条里に関する溝の北側の肩に当たっている可能性がある。地割り

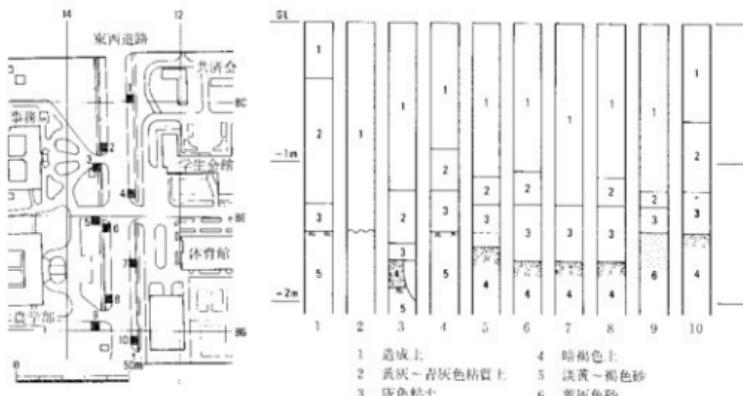


図12 調査33の位置 (1/2500) と土層柱状略図

の検討から、すぐ南を西流する主川の現河道沿いに坪境の溝があったと推測されることも、それと符号しよう。また、縄文晩期の可能性のある土器片が発見されており、それ以外の時期の遺構も付近に存在する公算が高い。

調査28・33・34（図12）では、南北道路沿いの上層の状況が明らかになった。図12の1・4地点は基盤層（5層）が高く、直上に中世層（3層）があり、いわゆる黒色土に相当する可能性がある黒褐色土層（4層）は削平されている様子である。保健管理センター地点と一連の微高地の続きをと考えられよう。5～8・10地点では黒褐色土層が認められ、それよりやや低い部分と考えられる。9地点は黒褐色土層が認められず、さらに低い部分あるいは河道などの可能性が考えられる。全体の趨勢としては、今回の範囲の北端は東から延びる微高地の続きを、南西に向かってやや低くなるという地形が想定できる。

調査39～41では、津島南地区東端部の上層について知見が得られた。アリによる掘削のため、壁面の観察が困難で詳細をつかみかねたが、野球場の東辺・北辺の付近は、ほぼ全面にわたって黒色土が存在する状況が見て取れる。

## ②鹿田地区

鹿田地区では、事業別にみて6件、総計12箇所の立会調査が行われた。造成土内でとどまる浅い掘削が多かった。調査49では、鹿田地区南西端付近においても、中央部とはほぼ同じ程度のレベルに明治層が広がっていることが確認された。

（松木）

注（1）「岡山大学構内道路調査研究年報」9、1982年、7～10頁

表1 1993年度調査一覧

番号	種類	調査地名	所属	調査名	調査期間	掘削深度(m)	備考
1	発掘	津島南 BB~BC-10~11	保健管理センター		4.17~7.31	1.5~1.8	測量面積400m <sup>2</sup> 弥生~後期土壞、弥生末~古墳前期井戸・土壤、古墳時代住居址、古代?獣頭埴輪、 埴輪等 (伊馬四次10次調査)
2	発掘	津島北	情	情報処理センター			測量面積640m <sup>2</sup> (津島西11次調査)
3	試掘	津島南 BB~BF-22~23	農	農学部汎用耕作地実験実施所	12.6~7	1.5	中~近世墓地、黒褐色土層
4	立会	津島 CA~CG-70~74	医	動物実験施設西側駐車場整備	4.5~7	0.75	造成土内
5	"	津島 AM~AN-47~48	医	外木造診療所北側駐車場整備	4.5	0.5	造成土内
6	"	津島北 AZ10	理文	沈殿槽設置	4.6	0.85	造成土0.85m、灰褐色粘質土層上土を確認
7	"	津島 DC~DD-44~45	施	基礎地盤調査	4.16	0.5	造成土内
8	"	津島北 AZ08	周	給水管改修	4.27	1.3	既設管側方内
9	"	津島北 AV17	事	電柱移設	6.1	1.4	新羅時代の土壌上、造成土内
10	"	津島北 AV05~06	工	生体機能応用工学科棟敷設設備	7.26~29 8.3, 8.19	0.7~1.5	既設空洞内、一高明治期
11	"	津島南 BF08~10	教	排水管改修	8.26	0.5	造成土内
12	"	津島南 BD09	事	女子学生寄宿舎電気配線設備	9.6	1.3~1.5	造成土内
13	"	津島北 AV04	T.	生体機能応用工学科棟外張工事	10.1~27	0.5~1.6	CL 0.7~0.8mで明治層、 -0.85mで近世層
14	"	津島北 AZ~BA03	教	電柱埋設	10.8	1.0	CL 0.6~1.0mで明治層
15	"	津島北 AZ08	工	配管改修	10.12	1.0	既設管側方内
16	"	津島南 BB~BC-10~11	保	保健管理センター新設に伴う外構工事ほか	10.13~25	0.6~1.2	CL 0.65~0.7mで明治層
17	"	津島南 BB~BC-10~12		電気配線	11.2~15	1.8	CL 0.6~0.7mで明治層、以下 保健管理センター本調査と同 じ層序、高褐色土は 1.1m~ 1.7mその点で基盤埋設
18	"	津島南 BC11		電柱設置	2.1	1.2	CL 0.8mで明治層、-1.1mで 近世層
19	"	津島南 BB11		旧棟改修	2.8~10	1.1	CL 0.8mで明治層、既確認 赤土器3片、工法変更
20	"	津島北 AV10	津島地区工字形木組配管改修	11.16, 3.7	0.5~0.6	造成土内	
21	"	津島北 AV13	監修整備	11.22	0.4	造成土内	
22	"	津島北 AV07	工学部電気電子機器改修 か配管改修	11.24~25 12.13~14	0.6	造成土内	
23	"	津島北 BA07	R I 共同利用施設 排水沟渠施設設置	11.29~12.3	3.2	明治~中世層、黒褐色土層確 認 古代?溝、繩文焼灰?土壌下 1	
24	立会	津島北 AY01~A003~04	教育学部受水構設置	12.13~14	0.4~0.5	造成土内	

番号	都道	調査地区	所属	調査名号	調査期間	掘削深度(m)	備考
25	"	津島北 AY~AX-01~02	事	津島地区 教育学部配管 基盤等備	1.7, 2.1	0.4~0.5 造成土内	
26	"	津島南 BB07		野球場配管	2.18	0.7 造成土内	
27	"	津島南 BB~BG-12~13		農学部前樹木移植	11.9~12.8	0.5~0.7 造成土内	
28	"	津島南 BD~BE13		南北道路沿本路ボックスカルバート設置	11.12	1.5 GL~1.0mで明治層、以下中層~近世層を確認	
29	"	津島南 BB~BG-12~13		南北道路沿水路基盤	12.16	0.4 造成土内	
30	"	津島南 BC~BF-12~13		聖水マス埋設	12.21~24	0.8~0.9 造成土内	
31	"	津島南 HH~HD12		電気配線	1.18~19	0.7 造成土内	
32	"	津島南 HE~HF-17~18		樹木移植	1.21	0.8 造成土内	
33	"	津島南 DB~BG-12~13		水銀灯設置	2.3~7	1.8 10箇所、GL~0.5~1.2mで明治層、以下近世~中世層、一部で昭和初期層を確認	
34	"	津島南 BD~BF-12~13		信号機設置	2.8~10	1.6 GL~1.0m前後で明治層、以下近世~中世層、一部で昭和初期層を確認	
35	"	鹿田 AK~AL30	鹿	鹿田地区 葉木・石板等設置 保安装置	11.10, 12.01	0.7 造成土内	
36	"	鹿田 AE43~50		樹木移植	12.15	0.7 造成土内	
37	"	鹿田 AD34~55		自転車駐留設置	3.3	0.5 造成土内	
38	"	津島南 BH~BF23	農	汎用耕地実験実施設外構工事	1.17	0.7 造成土内	
39	"	津島南 BB~BC05	学	野球場バッターネット ネット他改修	1.21	2.0 GL~1m前後で明治層、~2m付近で部分的に黒色土を確認	
40	"	津島南 BB05~06		バッケネット	1.21~1.26	3.0~3.2 GL~1m前後で明治層、~2m付近で黒色土を確認。その下は黄褐色~青灰色粘土	
41	"	津島南 BB05~07		北側防護ネット	2.15~16	3.0 施工39~40より既に風化が進く、~1.2~1.8mで黒色土を確認。その下は褐色~青灰色、薄水	
42	"	鹿田 CF~CL-36~38 CD~CP-35~36	医	看護婦室舎 樹木移植 改修	10.20	0.5 造成土内	
43	"	鹿田 DB30~42		配管・システム	1.18	0.5~0.8 造成土内	
44	"	鹿田 CP~D1-26~30		電気配線	1.27, 2.07	0.7~1.0 GL~0.6~0.7で明治層確認	
45	"	鹿田 CT38~CV38, CT 40~42, CT~CV40		電力・弱報・通 信外接設置	2.2	0.8 造成土内	
46	"	鹿田 AD~AG-2~7	医病	外来患者用二輪定期駐車場設置	2.14	0.7 造成土内	
47	"	津島南 HF~BG-22~23	事	津島地区情報・農学部・弓道 ネットソーカ	3.7~9	0.7 造成土内	
48	"	津島南 BF~BG-17~18		農学部弓道部	3.9~11	0.7 造成土内	
49	"	鹿田 BG68~75	医	サニスコートブロック解体改修	3.14	0.9~1.0 GL~0.8~0.9mで明治層確認	

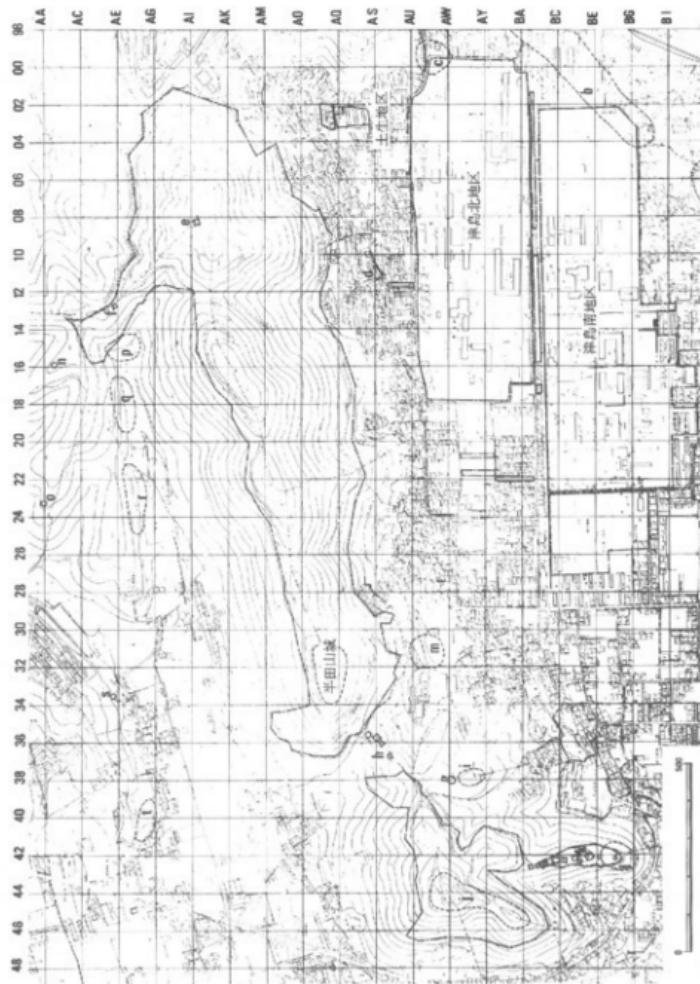


図13 津島地区全体図 (縮尺1/5000)

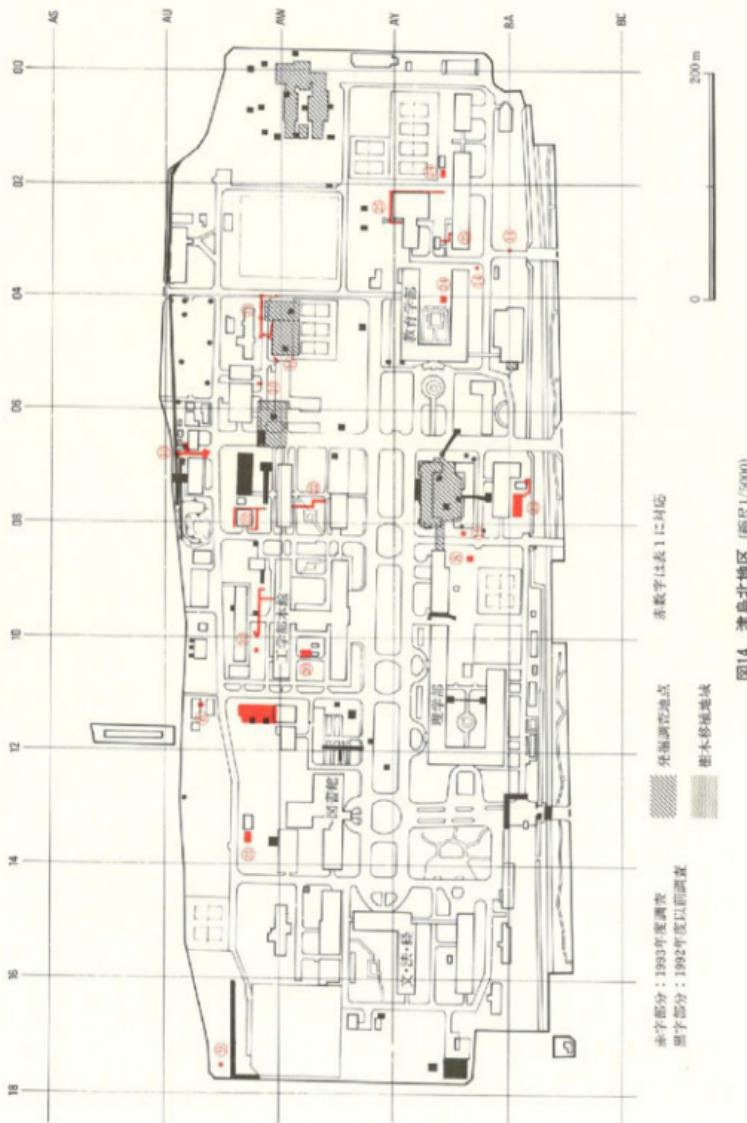


図14 津島北地区 (縮尺1/5000)

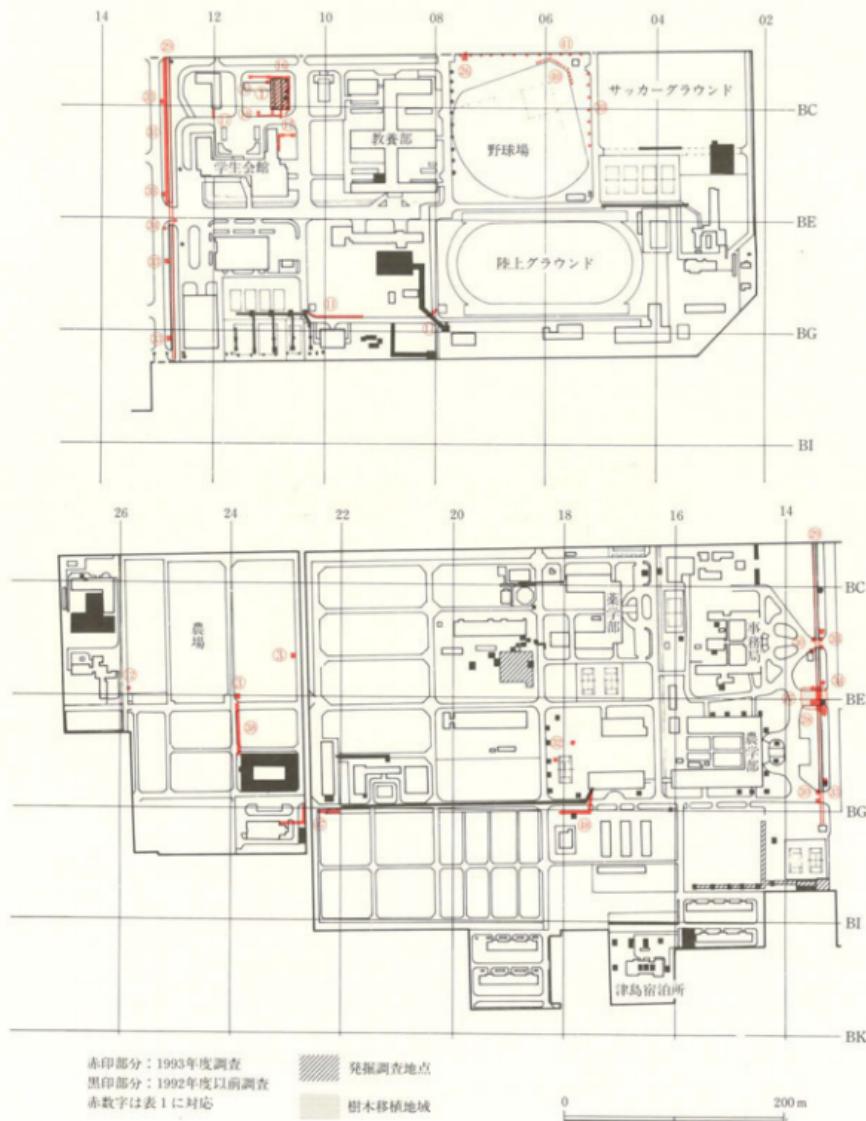


図15 津島南地区 (縮尺1/5000)

立会調査

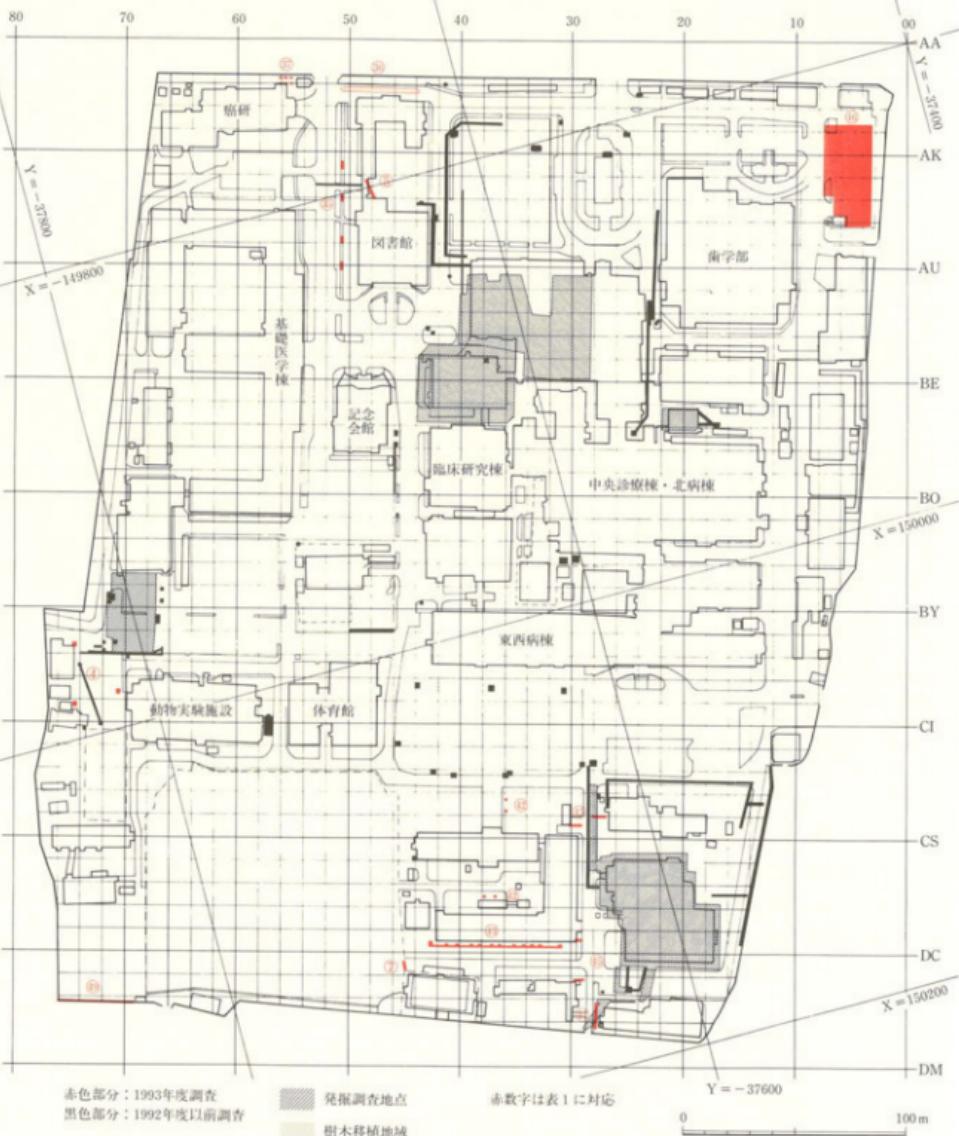


図16 鹿田地区全体図 (縮尺1/2500)

## 第2章 1993年度普及・研究・資料整理活動

### 1 資料整理

本年度は次の6件の発掘調査の資料整理を行った。

- ① 津島岡人遺跡第5次調査（大学院自然科学研究科棟）  
報告書刊行
- ② 津島岡人遺跡第6次調査（工学部生物応用工学科棟）  
遺物実測、図面作成
- ③ 津島岡大遺跡第7次調査（工学部情報工学科棟）  
遺物実測、図面作成
- ④ 津島岡大遺跡第8次調査（遺伝子実験施設）  
遺物洗浄
- ⑤ 津島岡大遺跡第9次調査（工学部生態機能）  
遺物洗浄
- ⑥ 津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター）  
遺物洗浄

### 2 分析依頼

- ① 津島岡大遺跡出土の縄文時代堅櫛の漆の分析および鹿田遺跡出土の刀の保存処理 ..... 関田文男
- ② 津島岡大遺跡および鹿田遺跡出土土器の赤色顔料の分析 ..... 猪島純一

### 3 刊行物

- ① 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第10号 1993年3月 発行
  - ② 岡山大学構内遺跡調査研究年報 第10号 1993年11月 発行
  - ③ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第7冊 1993年3月 発行
  - ④ 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第11号 1993年10月 発行
- なお1992年度までの刊行物については附表3・4で一覧として掲載してある。

### 4 調査員の活動

#### (1) 資料収集活動

阿部芳郎

岡山県津雲貝塚出土遺物の査定：京都大学

香川県永井遺跡出土遺物の査定：香川県埋蔵文化財センター

富樫孝志

石炭岩地帯における遺跡および第4紀哺乳動物化石産出地点の調査：岡山県阿哲台

松木武彦

東海地方南部の古墳実査

埋蔵文化財行政に関する資料実査

山本悦世

北部九州縄文時代関連資料収集

南九州の縄文時代関連資料収集

関東の縄文時代関連資料収集

四国における弥生前期土器の実見

(2) 学会・研究会等参加

阿部芳郎

考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会大会（5月）

富樫孝志

中・四国旧石器談話会（11月）、考古学研究会総会（4月）

松木武彦

考古学研究会総会（4月）、文化財保存全国協議会大会（6月）、日本考古学協会大会（10月）

山本悦世

考古学研究会総会（4月）、中四国縄文研究会（6月）、東海考古学フォーラム豊橋大会（12月）

古代の土器研究会（1月）、国際低湿地遺跡研究会（3月）、中四国中世土器検討会（10月）

(3) 論文・資料報告他

阿部芳郎

「縄文土器の広がりは何をしめすか」『新視点日本の歴史』「新人物往来社

「研究動向 土器型式論 後期」「縄文時代」第5号

「上七棚遺跡出土後期土器の胎土分析」（共著）綾瀬市史研究創刊号

「四街道市島越台貝塚と鹿島川下流域の後期遺跡群」四街道市の文化財第20号

「後期第Ⅳ群土器の型式学的検討」『津島岡人遺跡』4

「後期第Ⅳ群土器の製作技術と機能」同上

「西ヶ原貝塚出土の堀之内1式土器とその変遷」『西ヶ原貝塚』東谷戸遺跡 東京都北区教育委員会

富樫孝志

「津島岡人遺跡第5次調査出土の縄文時代後期石器群の技術構造」『津島岡大遺跡』4

松木武彦

「文全協第24回佐賀大会参加記」『考古学研究』第40巻第2号

山本悦世

「貯蔵穴出土の種子」（共著）『津島岡人遺跡』4

## 5 日誌抄

1992年		
4月1日	元興寺文化財研究所より保存処理將の鹿田遺跡の木器返却	貸出し
4月2日	月例会議	11月1日 月例会議
4月6日	土井、松木植物種子分析依頼のため大阪出張	11月5日 第一会議室遺物展示ケースの展示換え
4月21日	センター報納品	11月18日 木器処理、PEG溶液の濃度を95%に上げる。
4月23日	木器処理、PEG溶液の濃度を70%に上げる。	11月24日 センター報納品
4月28日	運営委員会 1992年度事業報告、1992年度予算案、1993年度事業計画	11月26日 12月以降の発掘調査の計画について検討
5月7日	月例会議	11月30日 「考古学入門」受講生、発掘調査見学(新納引率)
5月26日	管理委員会	12月1日 月例会議
5月28日	「鹿田遺跡3: 納品	12月2日 津島岡大遺跡第12次(図書館増築)調査の打合せ
5月31日	木器処理、PEG溶液の濃度を75%に上げる。	12月13日 「津島岡大遺跡4」原稿入稿
6月7日	月例会議	12月16日 「岡山大学構内遺跡調査研究年報」10納品
6月18日	技術補佐員綱川 忠追職 NHKビデオ収録	12月21日 大掃除
6月26日	津島岡大遺跡第10次(保健管理センター)調査現地説明会	12月27日 御用納め
6月30日	調査研究員上井基可退職	
7月27日	月例会議	1994年
8月2日	津島岡大遺跡11次(情報処理センター)調査打合せ	1月4日 御川始め
8月3日	津島岡大遺跡第10次調査終了	1月10日 月例会議
8月5日	運営委員会	1月11日 津島岡大遺跡第11次調査終了。同第12次調査(図書館増築)の発掘承諾書提出
8月17日	木器処理、PEG溶液の濃度を85%に上げる。 『鹿田遺跡3: 発送	1月13日 年報10、センター報10発送
8月27日	博物館実習開始	1月14日 緊急会議 新年度の業務体制と第一会議室展示変え等について
9月2日	月例会議	1月20日 木器処理、PEG溶液の濃度を100%に上げる。
9月14日	津島岡大遺跡第11次(情報処理センター予定地)調査開始	2月1日 月例会議
9月27日	鹿田遺跡出土の動物骨、奈良国立文化財研究所より返却	2月3日 運営委員会
10月1日	月例会議	2月24日 木器処理終了。処理槽より木器取り出し
10月4日	木器処理、PEG溶液の濃度を90%に上げる。	3月3日 津島岡大遺跡第12次(図書館増築)調査開始、月例会議 報告書作成状況、新年度活動計画、予算案等
10月8日	岡山県立博物館特別展に写真貸出し	
10月20日	運営委員会 入事について	
10月21日	岡山県立博物館に鹿田遺跡出土遺物	

## 6 1993年度までの遺物保管状況

### 遺物収蔵量（表2）

1994年3月31日における遺物収蔵量は約30Lのコンテナを単位として、1616箱である。また木製遺物は大型の水槽に保管のものは1箱に換算してある。

前年度に比較して約59箱分の増加が見られたが、これは沖島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター）と同11次調査（情報処理センター）の調査によるものである。とくに第10次調査では、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落の一部が検出されたため、土器類を主体として、木製品や鉄屑を含む土壌サンプルなど多くの遺物と分析資料が回収された。

これらの遺物は、今後の整理分析作業により分類と接合や復元がおこなわれ、最終的な収納形態を整えるため、実際のところは箱数の増加が予想される。また木製遺物についても保存処理後の保管場所の確保等で収納面積の増加が見込まれる。

## 7 遺物の保存処理

岡山大学構内では各調査において多くの木製品を出土してきた。これらの木製品は、何らかの科学的処理を行わない限り、長期的保存を望むのは困難である。保存処理の方法としては自然乾燥が可能な場合もあるが、PEG（ポリエチレンギリコール）・アルコールなどを水と置換する方法が、現在、一般的である。

本センターでも、調査ごとに増加する木製品の保存のため、ついに、1992年度から本格的な対応を開始することができた。保存処理の困難なものに関しては専門業者に外注せざるを得ないが、安全性の高いものについてはPEG含浸による保存処理が可能となった。

本年度は、昨年度の7月から開始した第1回目の含浸の継続、そして終了までが成された。濃度の上昇工程は次のようである。

1993年4月23日	65%—70%	5月31日	70%	75%	6月30日	75%—80%
8月9日	80%—85%	10月3日	85%	90%	11月18日	90%—95%

ここまで水分の蒸発とPEGの投入によって5%ごとに濃度を上昇させた。

11月30日からは蓋を開けて水分を徐々に蒸発させることによって、100%に近づけることとした。その後、98%程度までは濃度の上昇が認められたが、それ以上は変化しなかったため、1994年2月24日に含浸を終了し、木製品の引き上げを行った。

含浸槽から出された木製品は、PEGがべつとり付着しているため、湯でさっと表面を洗い流した後、50%弱のアルコール溶液に通してから、日陰で自然乾燥させた。

数日間乾燥した後、それをやや厚めのポリ袋に入れ、ポリシーラーで密閉して保存している。処理後の状態は、概ね良好で形状に歪みや亀裂等は生じていなかった。

このように、本センターにおいても木器の保存処理がある程度可能であることが確認され

表2 埋蔵文化財調査研究センター収藏遺物概要

所属機関	地 調 査 名 区 域	箱 数(1箱:約30ℓ)				備 考 主要時期・特殊遺物	文 部
		総 数	土 器	石器	木器 その他 サンプル		
医療発掘	鹿田1次調査(外來治療棟)	608	491	6	60	50 ガラス 鉄 銅 錫 銀 他	弥生中期～中世、近世 如意頭、櫛状木器等
〃	鹿田2次調査(NMR-C T室)	116	90	3	20	3	弥生後期～中世、田舎、木質
医療	鹿田3次調査(校舎)	132	36		90	5	古代～中世
〃	鹿田4次調査(配管)	3	2			1	古代、鹿角製品
医療	鹿田5次調査(管理棟)	119	79	1	20	19	弥生後期～中・近世
R I	鹿田6次調査 (アソートープ総合センター)	30	29.5	0.5			中世、青銅製鏡
全	津島岡人1次調査(N P-1)	4			4		弥生中期～古代
農	津島岡大2次調査 合併処理槽 排水管	18		1		4	绳文後期～弥生初期
学生	津島岡人3次調査(男子学生寮)	71	49	10	2	10	绳文後期～弥生、古代～近世、母 石製指輪、蛇頭狀土器片
〃	津島岡大4次調査(室内運動場)	1	1				绳文後期～弥生前期 <試掘調査遺物を含む>
人骨	津島岡大5次調査 (自然科学研究科)	89	55	2		32	绳文後期～弥生、古代～近世 耳飾・木製飾(绳文)
工	津島岡人6次調査 (生物応用工学科)	63	30	1	22	10	绳文後期～近世 人形木器、アンペラ
〃	津島岡大7次調査 (情報工学科)	13	7	1		5	绳文後期～近世
全	津島岡人8次調査(遺伝子実験)	14	12.9	0.1		1	绳文後期～近世
工	津島岡大9次調査 (生体機械工学)	258	35		3	220	绳文後期～近世
全	津島岡人10次調査 (保健管理センター)	55	40		5	10	弥生初期～近世
〃	津島岡大11次調査 (情報処理センター)	4	2			2	
医療	鹿田1回車庫場	1	1				弥生～中世
学生教育	津島北 男子学生寮	1	0.7	0.3			绳文後期～弥生前期
大白	〃 自然科学研究所	1	1				绳文後期～弥生前期
事	津島 外国人宿舎(土牛)	1	1				绳文～中世
課	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3				中・近世

所属・種類	地 調 取 扱 い 名 称	箱 数 (1箱: 約30ℓ)				備 考 主要時期・特殊遺物	文 獻
		起 数	上 器	石器	木器	その他のインプレ	
教養 試振	津島南 身障者用エレベーター	0.7	0.7			縄文・中世	⑨
工 ハ	津島北 校舎	1	1			縄文～近世	⑩
農業 ハ	津島南 動物・過去に了実験施設	0.7	0.7			縄文～弥生、中・近世	⑪
事 試振	津島南 國際交流会館	0.3	0.3			中世	⑫
大口 ハ	津島北 合併処理槽	0.2	0.2			中・近世	⑬
学生 ハ	津島南 学生合宿所	0.4	0.2		0.2	中世	⑭
教育 ハ	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3			縄文	⑮
國 ハ	國青館	0.8	0.8			古墳～中世	⑯
学生 ハ	津島市 学生合宿所ボンボン	0.4	0.4			縄文～中世	⑰
資生 ハ	食 教 資源生物学研究所	0.1	0.1			近世	⑱
R I	鹿 田 アイソトープ総合センター	1	1			中世～近世	⑲
事 ハ	津島北 福利厚生施設	0.5	0.5			弥生?～中世	⑳
全 立会 83年度		2	2			分調形土製品	㉑
ハ 84年度		1	1				㉒
ハ 85年度		1	1				㉓
ハ 86年度		0.5	0.5				㉔
ハ 87年度		0.5	0.5				㉕
分布 89年度 一朝・本島		0.3	0.3				㉖
全 立会 91年度 92年度 93年度		0.3	0.3				㉗
箱 総 数		1616.3	991.2	25.9	226	1 372.2	㉘

小文献番号は附表3、4に対応する。文献番号は本文第11を指す。

た。ただ、専門の職員がおらず、発掘調査等の合間をぬっての作業であったため、通常の工程と比較してかなりの時間が費やされてしまい、また、専門的知識の不足から、試行錯誤の連続であった。こうした点は今後の課題として解決していく必要を感じている。

木製品の保存処理は、長期的な保存を可能にするだけでなく、通常の状態で長時間水から出すことのできなかった遺物が扱い易くなることによって、より幅広い活用方法（例えば展示など）も生み出す。今後も、継続的に保存処理を続けていくことが必要であろう。

本年度の保存処理に関して、特に、京都市埋蔵文化財研究所の岡田文男、岡山県古代吉備文化財センターの達藤七都子、両氏には細部にわたるご教示をいただいた。感謝の意を表したい。

(山本)

### 第3章 1993年度活動のまとめ

本年度は船田孝司センター長以下、助手5名、技術補佐員1名の業務体制で、構内遺跡の調査および出土資料の整理分析作業をおこなった。今年度の発掘調査は、沖島北地区の保健管理センターの建築にともなう調査（津島岡大遺跡第10次調査）と南地区内の情報処理センターの建築にともなう調査（津島岡大遺跡第11次調査）の2件であった。

第10次調査は敵高地部分に相当し、集落の検出が予測されていた地点である。前年度からの継続調査で本年度は近世附以下の調査を実施した。弥生時代後期から古墳時代前期を中心とした多量の遺物が、住居や上坑などの遺構に伴って検出され、本調査地点が当時の集落址にあたることが明かにされた。

第11次調査は敵高地のなかでも立地がやや低く、図書館北側に展開する湿地にむかい、緩く北側に傾斜する地点にある。ここでは弥生時代後期と古墳時代の層内で比較的良好な遺存状態で水田畦畔が全面に検出された。またこの下層には黒色土を掘り込む堅穴状遺構と黒色土の中位面以下に構築面をもつ小堅穴遺構が各1基検出された。前者は出土遺物と構築面から弥生時代中期に、後者は未調査部分を除くが床面出土遺物から縄文時代後期の所産と判断できるものであった。低位の立地を示す居住施設の発見は、縄文、弥生時代の居住形態を検討する興味深い材料となるであろう。

室内的整理分析作業では、1988年に調査された津島岡大遺跡第5次調査の報告書が刊行された。縄文時代後、晩期の貯蔵穴と、周辺から出土した豊富な上器・石器類などの遺物は、上器編年や当該期の生産活動の復元に役立つ貴重な資料となろう。また自然遺物や理化学的手法による分析から、コメやヒニなどの栽培植物の存在が明かになり、当地域における縄文時代後期の生業を考えるための注目すべき成果もあがっている。

定期刊行物では、年報10、センター報11、12号も予定通り刊行できた。年報の附録では能代修一氏に委託した鹿田・津島東地区の木製品と木材化石の樹種同定結果を一括再録し、今後の活用の便を図った。

構内遺跡の調査の進行により収納量が急増している木製品については、昨年度よりPEGを用いた保存処理を新設の木器処理施設で開始したが、第1回目の処理が終了した。井筒や杭などの大型のものも多く、処理後の収納と保存管理など、今後に検討すべき問題も表面化しつつある。この他に啓蒙活動として津島岡大遺跡第10次調査の現地説明会を実施した。今後とも学内、外を含め、発掘調査の成果をひろく公開・普及し、学内の埋蔵文化財の保存と活用に対する理解を深めてゆく必要がある。

（阿部）

## 附 表

附表1 1982年度以前の構内主要調査(1980~1982年度)

年度	調査地名	種類	所轄	調査名称	調査範囲	面積(ha)	文献	備考
1980	鹿児島	立企	南	同内施設新設	岡山市教育委員会	8.0		
1981	津島南 RDC26	"	農	青宿今新宮	"			
	津島北	"	文法	合併地埋設埋没	"			
	津島南 RDC9 RDC9~11	"		草幹整備(共同調査)	"			
	津島南 RD~BE04~07	"		陸上競技場改修(配水管埋設)	"			
	鹿児島	"	医病	高気圧治療室新設	"			
	"	"	"	動物実験施設新設	岡山県教育委員会			試験調査を含む廃棄物有機灰等の調査
	"	"	"	病理解剖体機器修理保管	岡山県教育委員会			
	"	"	"	運動場改修	"			
1982	津島 AV06~10 AV05~14 ANC8,B007 BE_0	試掘		排水基盤整備	"			
	小橋法旦里 津島北 AB14	発掘	法文	排水管集中槽(N=1)埋設	岡山大学	24.0	③	<津島回天1次調査>
	津島南	試掘	学生	武道館新設	岡山県教育委員会	2.3		
	津島北 AV~15~16	"	法社	校舎新設	"	7.0		
	鹿児島	"	医	標本保存庫新設	岡山県教育委員会	8.0		
	"	"	医病	外文診療棟新設	岡山県教育委員会	4.0	2	
	"	立企	"	動物実験施設及連絡水管	岡山県教育委員会			
	鹿児島 AC~AN22 AC22~26	"	電	ガス管設	岡山県教育委員会 岡山大学埋蔵文化財調査室	"		

※文献1 永永真一「岡山大学医学部附属施設動物実験施設新設工事に伴う排水管付設工事に伴う立企調査」『貯水埋蔵文化財報告』13-1983 岡山県教育委員会

2 河本 順 岡山大学医学部附属病院外来診療棟改築に伴う確認調査 「岡山県埋蔵文化財報告」13-1983 岡山県教育委員会

③番号は附表3の番号に対応する。

附表2 1992年度以前の構内主要調査(1983~1992年度)

附表2-(1) 発掘調査

年度	調査地名	種類	調査名称	期間	面積(ha)	備考	文献
1983	鹿児島 AC~BB08~40	医病	外来診療棟新設	7.27~11.22 84.1.9~3.31	2.88	弥生時代中期後半~中 近世集落社 <鹿田1次調査>	③
"	BC~BI,8~21	"	VTR C~新宮	8.1~12.30	176	弥生時代後期~中世集落 <鹿田2次調査>	"

## 1993年度活動のまとめ

年次	調査地名	所調	調査名称	期間	面積(㎡)	備考	文献
1983	津島南 BE14-18 BF17-18 BG14 BH14-15	農	排水管理設	'84.1.9~3.5	265	縄文時代後期~弥生時代 初期集落址	①
	" BH13	"	合併地埋蔵構造	'84.1.14~11.22 '84.1.9~3.5	276	<津島同大 2次調査>	"
1984	鹿田 AL~BB28~40	医病	外来診療棟新宮	4.1~8.3.	2188	弥生時代中期後半~中・ 近世集落址 <鹿田1次調査>	②
1986	" CX~CD27-28 CT~CY19~27 CX~DP7.8~25 DD~DC22-23	医病	校舎新宮	6.2~11.29	2390	古代~明治の集落址 <鹿田3次調査>	③
津島北 AV00, AW00-01	学生	男子学生寮新宮	12.1~'87.3.3.	1550	古代~近代の水田址 <津島同大3次調査>	④	
	津島南 BF-BG09	"	屋内運動場新宮	'87.1.19~1.22	70	弥生前期房、中世河道 <津島同大4次調査>	⑤
津島北 AV00 AW00-01	"	男子学生寮新宮	4.1~6.18 8.24~9.5	550 80	縄文後期~弥生の集落址 縄文後期~晚期の河道 <津島同大3次調査>	⑥	
	鹿田 BB~BH35~42	医病	管理棟新宮	'0.6~'88.3.2 '88.3.23~3.3.	192	弥生中期後半~中・近世 の集落址 <鹿田5次調査>	⑦
"	BB~0F25 DG~0.27~28	医病	校舎周辺の配管	11.2~11.21	30	古代の河道 <鹿田4次調査>	⑧
	津島北 AT06~08 AZ00-07	人	自然科学研究科棟	6.27~'89.3.19	1537	縄文後・縄期の野廃穴と 河道 弥生~近世の水田址 <津島同大5次調査>	⑨
"	AV-AW04-05	I	生物応用工学科棟	9.20~'89.3.3.	600	縄文後・晩期の野廃穴と 河道 弥生~近世の水田址 <津島同大6次調査>	⑩
	" AV-AW05-06	"	情報工学科棟	'0.2~ '89.3.3.	800	縄文後・晩期集落址 弥生~近世水田址 <津島同大7次調査>	⑪
1989	津島北 AV-AW04-05	T	生物応用工学科棟	4.1~5.31	600	縄文後・晩期の野廃穴と 河道 弥生~近世の水田址 <津島同大6次調査>	⑫
1990	津島北 AV-AZ08	人	自然科学研究科棟	4.3~4.21	90	占墳時代後期房 <津島同大5次調査>	⑬
鹿田 BB~CC67~71	R I	アイソトープ総合 センター (R I)	11.20~ '91.3.31	690	縄文時代溝・井戸・建物 群 <鹿田6次調査>	⑭	
	R I	アソシートープ総合 センター (R I)	4.1~6.30	600	縄文時代溝・建物群、土 器等 弥生~古墳時代墓、土 器、二器 <鹿田6次調査>	⑮	
津島南 BD18-19	農	遺伝子実験施設	7.23~12.25	650	弥生時代~近世墓等、縄 文時代土器、二器、石器 <津島同大8次調査>	⑯	
	津島南 BB-3	"	(合伊丸埋蔵)	7.23~12.2	140	古代~近世土器 弥生~石器 <津島同大8次調査>	"

年度	調査地名	所属	調査名称	期間	面積(㎡)	備考	文献
1992	津島北 AU~AM04	T.	生体標記応用工学 科場	7.1~'93.1.29	650	鷺文後、晚期の貯蔵穴と 河道ほか 後4~近世の構造と水田地 <津島岡大9次調査>	参考
	津島南 BF~BC10~11	保	保養管理センター	'93.2.1~3.31	400	近世耕地・野菜ほか、94 年度に耕作 <津島岡大10次調査>	n

附表2-(2) 試掘調査など

年度	調査地区名	所属	調査名	深度(m)	備考	文献
1983	津島北 AM13	農	合併地選定地	2.5	発生・前期上層片(83年度発掘)	①
"	BF~BG14 CF~BH15 EF~BH16~18	保	排水管理段選定地	2.0	発生・前期上層片(83年度発掘)	n
"	BF17	保	排水管中間ポンプ機選定地	3.5		n
"	BF22~23	保	農場拡張新設予定地	2~3	造成:0.6m、上層片出土 (1987年度工事立会)	n
"	BC~BD15	事	大学市農場新設予定地	"	造成1.0m、土器片出土	n
"	BD10	学生	保健管渠化新設予定地	"	造成:0.8m、溝検出	n
"	BD16	事	津島側新設予定地	2.0	造成1.0m、上層片出土 (1987年度工事立会)	n
津島北 AM05		T.	校舎新設予定地	3.0	造成±1.0m、上層片出土	n
1984	要町 BF30~31	医病	西側様北側受水槽予定地	1.4	造成1.0~0.7m 土器片、包含層確認 (上層保存)	②
"	CF~CJ25 CJ19~20~23~24	医病	東側様副校舎新設予定地	2.7	造成1.0~1.0m 柱子、古代の遺物出土 (1988年度発掘調査)	n
1985	津島南 BK08	教養	講義棟予定地	3.5	造成±1.2m、遺構・遺物未確認 (1988年度工事立会)	③
津島北 AX02	教育	研究棟予定地	2.6~3.4	造成±1.2m 鷺文~後世時代上層出土	n	
"	AV~AW99~01	学生	男子学生寮新設予定地	2~3	造成±1.0m 鷺文~平世の遺構・遺物 <1988年度発掘調査>	n
津田 A~33,A140 A~AK26	医病	外来診察棟構築準備工事に 伴う立派確認調査	2.2~3	造成±0.9~1.4m 発生~中世の遺物	n	
1986	津島南 BF~BG09	学生	屋内運動場新設予定地	2.4	造成±1.1m 1.2~1.7 発生前開溝・中世河道検出 (1988年度発掘調査)	④
津島北 AT~AZ07	大	自然科学研究科新設予定地	1.6~3.2	造成±0.6~0.8m 鷺文中期末・後期の遺構・遺物 <1988年度発掘調査>	n	
1987	一生 AP02	事	外国人宿泊施設予定地	2.2~2.8	近世・発生・鷺文の遺構面確認	⑤
津島北 AV11	情	情報処理センタ新設予定地	2.0~3.0	造成1.2m 黑色土+標高2.2m前後で確認	n	
"	AV09	通	身体障害者用エレベーター 施設予定地	3.0~3.5	造成±約1m 近世・中世の遺物 中世・古代の水在り <発熱して発揮誤音に及ぶ>	n

## 1993年度活動のまとめ

年度	調査地区名	所員	調査名称	掘削深度 (m)	備考	文献
1987	津島市 8009	教育	"	2.5	造成上-0.7m 縄文時代-櫛群を確認 縄文-中戸・近伊土器出土 <発掘して免耕調査に及ぶ>	③
1988	津島北 AX04-06, AW04	二	校舎建設予定地	2.0~3.5	黑色土を標高3.0m前で確認 構造遺跡・水辺址検出 縄文-近世土器出土 <1988年度発掘調査>	④
	津島市 8018-19	農業	動物実験施設及び遺伝子実験施設	2.3	造成上-1.1~1.2m 黒色土を標高約2.3mで確認 構造遺跡・縄文-中戸遺物検出	④
	津島南 BC29	市	三郷交流会館	2.5	造成上-1.2m 近世-中戸の遺物出土 <1988年度工事立会>	④
1989	津島北 AZ17	大白	合併逃避構設置予定地	4.0	造成上-1.6~2m 中世-初期の木造の跡群・構 <1989年度工事立会>	④
	津島南 8002	学	学生会館予定地	2.0~3.2	造成上-約1m 縄文時代-弥生-古墳群の跡群 <1989年度工事立会>	④
"	AZ-8405	教育	身体障害者用エレベーター	2.5	造成上-0.8m 縄文時代後-晩期の馬込み 縄文時代後期-中戸土器等 <小規模発掘、面積38.5m <sup>2</sup> >	④
	津島北 AV-AW13	国	図書館新宮予定地	3.0	造成上-1.4~1.6m 古代大井、弥生-中代の構	④
1990	津島市 8002	学	学生寮新所パンプ場予定地	2.5	弥生時代前期跡群、中世土器等	⑤
食教地区	農業	農業生物科学研究所遺跡確認調査会	2.5	中世後半以降土器等	④	
	岐阜 BF-8268	R.I.	アソシートープ施設センター予定地	2.3	中世土器等出土など <1990-91年度免耕調査>	④
	津島南 AR-AN03	事	福利厚生施設予定地	3.0	弥生-古墳時代の構、中世土器等	④

附表2-(3) 立会調査

年度	調査地区名	所員	調査名称	掘削深度 (m)	備考	文献
1983	東山	教育	尾西中学校新校	4~5	シルト層中	①
	岐阜 AB-AS38, BC40	医病	久文診療棟及び旧耳鼻科検査室 現保存状況確認調査	2.5~3.0		④
	津島北 AX15	文	中庭衣類地下ドケーブル	0.7	造成上半	④
	岐阜 AN23	西朝	日川中央診療施設新設工事	1.0	"	④
"	AM32	"	外来診療棟シールド取付に伴う アース掘削	2.0	"	④
"	AB-AR22	"	外木筋構造蒸気配管改	1.3	弥生便器上部(分鋼序:製品) 貝集落	④
	津島南 BC-BF18	委	周辺排水用集中積埋設 木造監理改	2.5 1.5		④
	津島北 BA13	事	西門橋梁改修	2.6		④
	岐阜 BH17~18	医病	混合換水防ガス管理設	1.0	造成上- m	④

附表

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度 (m)	備考	文献
1984	鹿田 BG-BH17-18	医病	NMR-C T室新設関係排水施設取付	0.6~1.5		③
	鹿田 BD~BH64	医	川基盤区学様中庭駐車場整備	0.8		〃
	津島北 AW-AXII AZ-BH12-13	情	通信用電路埋設	0.7~1.4	造成 L0.9~1.2m	〃
	豊田 AK36 〃 BK23	医病	外来診療棟新設関係電柱架設 中診北病棟外系リカバリー室内 発熱器用取付	1.95 1.6	造成土 1.25m 〃 1.5m	〃
	〃 BT21	〃	賃房棟東側周辺ガバ管修繕	0.8	造成土中	〃
	〃 DB29	〃	真鍮導管合流排水管修繕	2.0	造成土 1.15m 中世包含層確認。中世・弥生土器	〃
	津島南 BH16	事	非常勤詰勤宿泊施設新設	1.6	〃 1.0m	〃
	〃 BH15	〃	南招合併地界権取付	2.0		〃
	〃 BH15~17	〃	南招合併地界権開係配水管埋設	1.0~2.2	造成土 1.0m 房・土質検出、須恵器、弥生土器	〃
	鹿田 BA16~22	医病	外来診療棟関係ガバ管引込み工事	1.2~1.4	ほとんど造成土	〃
1985	〃 AW~BK23 BK-BI24	〃	屋外排水管埋設	1.3~1.7	造成土 0.7~1.3m 中世・弥生の遺構、遺物確認	⑤
	〃 CB60	〃	看護学校構内水道ルート取設	1.0	造成土中	〃
	鹿田 AK~AM43~46 AO~AT42他	医	基幹導管整備給排水その他工事	1.0	造成土 0.8m、近世土器腐り被出	〃
	〃 AK~AM40 BA40~42	医病	基幹導管整備化工事、外来診療棟 西	1.1	〃 中世包含層確認	〃
	〃 AC34~36 AL~AA34~39 AL~AS39	〃	外末診療棟 北	1.1	〃 〃 〃	〃
	〃 BA22他	〃	基幹導管整備給排水その他工事	1.15	造成土 1.0m	〃
	津島北 AV06~07	工	三次元探査および排水管埋設	1.5~1.7	〃 1.0~1.5m、土器腐り出土	〃
1986	鹿田 CS-CT19~24 CH~CU12~13 CR14, CL~CW15 CF~CZ16, CH33	医病	樹木移植	0.8~1.5	〃 1.0m	⑥
	〃 BI~BK45	医	排水・汚水管改修	0.8~1.3	〃 0.8m	〃
	津島南 BK08~09	医病	校舎新築	2.3	〃 1.3m、中・近世土器・漆	〃
	豊田 BY10, CY29 DB29, CX27 CL~CW26~29	医病	〃 設備	0.5~1.2	〃 0.8~0.9m	〃
	津島北 AL04~16~17 AV15	文	樹木移植	1.0~1.6	造成土内	〃
	〃 AV16~17	〃	グランD改修	3.5	造成土 1.5m	〃
	津島南 BG08	学生	ハンドボールコート新設	0.2~2.0	〃 0.8m、黑色土確認	〃
	津島北 AX16	文	動物実験室新築	0.95	造成土内	〃

## 1993年度活動のまとめ

年次	実施地名	所轄	調査名稱	掘削深度	備考	文獻
1986	鹿児島市 C1~C12 C8~C13 C9~C14	気象	温溼及び雨量計測	2.3	造成 -0.8~1.0m, 中空包含層	参考
	津島市 3207-68	教育	校舎新築に伴う電気配管	1.8	造成上0.9m, 中空包含層	参考
1987	鹿児島市 BC37	医療	管理機器新設に伴う基礎地盤調査	2.5	地中鉄道包含層・填縫確認	参考
	津島市 AY09	理	身体障害者用ルンバーター設置に伴う汚水管整設	1.2 -深1.6	造成土1m前後	参考
	津島市 AQ02-C3	理	二軒宿舎屋外排水管改修	0.7	" 0.6m	参考
	津島市 AR01	学生	馬場災害水管修理	2.0	" 0.96m, 各部分	参考
	鹿児島市 CR14~17	消防	検査新設・配管	1.3	" 1.16m, 中間水田地	参考
	" BC~BF23	" "	" "	1.9	" 1.1m, 壁孔内	参考
	" CR16	" "	樹木移植	1.2	" "	参考
	" BF24 BG24~26	" "	" "	1.6 3.0	" 山土削除 " " 混乱内	参考
	" BB~BF24 BF23~24	" "	" "	1.38 1.8	" " 中世層確認	参考
	津島市 3-22-23	農	農耕施設新設その他工事	1.8	" 1.25m	参考
	" BG22	" "	合併地複数	3.6	" 1.2m, 自然露路内	参考
	" BR17~21	" "	電気	0.7~1.5	" "	参考
	" BE22	" "	給排水	3.0	" 1.3m	参考
	鹿児島市 BA17~21	医病	旧混合浴換北蛇頭港基礎	0.6	造成上2.9, 分生土層以上	参考
	" CR-CM05~43 CC~CM15~47	"	道落排水整備	0.7~1.1	" 深度1.1m地底のみ 造成+0.65cm	参考
	" CR-CM56-57	医	動物実験施設跡地埋削削	1.0~1.2	造成+0.8m	参考
	" "	" "	配管	0.3~1.0	" "	参考
	" CR13~20 CN~CQ14 C7~C14 CO~CZ26-27	医病	脳代謝核北側水管改修	0.8~0.9	" "	参考
1988	津島市 AY11-AZ11	放	特報犯罪センター造り替工事	1.2	造成上0.8~0.65m	参考
	鹿児島市 AB41,AJ~AD43 AV40	医病	精神疾患新設に伴う電柱架設	1.6	造成+0.6m~1.4m	参考
	津島市 AZ36	大	大学院新築に伴う電柱架設	2.3	造成-0.8m	参考
	津島市 BF-BG10-11	教費	テニスコート防潮施設	2.2 1.4~1.5	造成-1.5m 黑色土を表下約2mで確認 西に向かう落ちが推定される	参考
	" BC26	市	市民交流会館 本体部分	1.0 2.5~2.9	" 1.5m	参考
	" 9925-26	" "	電柱架設	1.7~1.9	" 1m, 以下は灰褐色土	参考
	" 3326	"	國際交流会館供給設備	2.2	造成1.13m	参考
	鹿児島市 AY47	医	主閑門近外灯取扱	1.0~1.3	造成上内	参考

年次	調査地区名	所調 調査名稱	掘削深度 (m)	備考	文献
1988	津島北 AL09-10	上 機械二穴斜・斜削石井斜井 大輪廻電気改修	1.4~1.6	造成土+1.4m	□
1989	" AZ09, BA-BD09	人口 自然科学研究所斜井電柱架設	1.8~2.2	造成土約1.0m	□
" AZ08	" "	二重削造路	1.4	専用接続本日、近世調査用	□
1990	" AL04-05	I 生物応用工学棟新設・施主架設	1.5~1.9	" 0.7~1.2m	□
" AV36	"	機械工学科棟地下部分掘削	6.0	強度=0.5mまで強制、演習室	□
津島南 BC32		市道沿跡地盤改良工事 学生舍宿舎新設	1.2	造成+1.2m	□
" AV17	大口 合併毛呂横 地質調査	2.3	造成+2.0m	□	
" "	" 本体部分掘削	3.0	<1989年度試掘調査>	□	
" BD05	学生 体育館底面改修工事	1.4	覆瓦内	□	
津島北 AX-AY14, BA16	文 樹木移植	1.5	"	□	
鹿田 CS26-27	排水 田管埋設解体に伴う配線移設	0.4~1.3	~近代木田層内	□	
鹿田 CS31~43 CS34~37 CS31~44	" 田管埋設跡地盤改良整地 樹木移植	0.8~1.0	造成土内	□	
" CG30-37-44 CI-CI45 CL28-29 CS35-42	" 旧管理施設地盤埋設整地 外灯基礎掘削	1.2~1.5	造成+0.7~1.0m 中世層確認	□	
1990	津島北 AZ-BM35	教育 エレベーター周辺排水管設置	0.6~0.8	造成土内	△
" BC-BD04-05	教長 グラウンドショーフ新設	1.5~1.2	造成土0.9~1.2m、未完成?	□	
津島北 AV04~10	神山町道本町津島東駅跡地盤改良工事	0.4~3.0	造成土0.6~1.4m、黑色土層 未調査?	□	
" AV-BM04-06	T 生物応用工学棟・伝播工学棟外構	1.3	造成土+~近世層 石垣石(水跡?)	□	
" AV-AZ06~36	大口 自然科学研究所外構工事及び付帯工事	0.5~2.5	造成土+~近世層 石垣石(水跡?)	□	
鹿田 BI~CS60~80	岡 住居古墳附近整地開削入替 植草	1.2 1.2	造成+0.7m 造成+0.7m	□ □	
" BI~CS60~80	E I給水管敷設交換	3.6~0.8	噴出層と直	□	
津島南 3014	事 小務局敷地内排水溝整備	0.3~1.5	造成1.0~0.8m	□	
津島北 AV01~03, A103	岡山市道本町津島東駅跡地盤改良工事Ⅱ	0.7~1.5	造成+0.7~0.8m 東端で未だの名残?	□	
津島北 BA14-16	文 施工用木石積み改修	1.1	造成土内 障壁の下限カット	□	
1991	津島南 BC26	事 外国人宿泊施設会館 グリストラップ改修	2.0	~GL-1.4m覆瓦+ 遮音木構造	□
津島南 BC18	道 防火用水槽上	2.0	~裏壁型、8次側全隣接地	□	
津島北 BM09-10	二 水泳池木造修理	0.8~1.2	造成土内、強化	□	
津島南 3304	教育 水道管破裂	1.1	造成土内、漏泄	□	

年度	実験地区名	所属	調査名	標高深度 (m)	備考	文献
1991	津島南 BC18	事	津島地区基盤配置 準備(電気)	0.7	GL-0.5mで明治層上面	◎
	津島南 BC10	タ	津島地区基盤ハンマーホール 準備(電気)	1.1~1.3	~近世層上面	◎
	津島南 BP04~07					
	津島北 AZ13~14					
	津島北 AW04~05					
	津島南 BB16	タ	タ ハンマホール アース版	1.7~1.8	湧出木確認	◎
	津島北 BB15	タ	津島地区基盤整備(電気) アース版埋設	1.7	黒色土面	◎
	津島北 BA12~13	タ	津島地区基盤整備(電気) 電柱	0.9	造成土内、透視不偏	◎
	奥日 CT44	工	水道管被覆	0.9	~近世層上面	◎
	津島南 BC18	港	透析子実験施設「事用2号」	1.1	造成土内	◎
	津島南 BA18, BC18	タ	透析子実験施設柱 設新宮開発	0.6~0.9	~明治層	◎
	津島南 BC18	タ	タ 作業用拡張部	0.8	~明治層	◎
	津島南 BC18	タ	タ 地下室	4.0~5.0	調査終了面以下、基盤無積物層	◎
	奥日 BB~BZ45~49	タ	医学部基盤整備 駐車場建設	0.3~1.0	~近世層上面	◎
	奥日 BS~BX43~54	タ	タ 木組打設置	1.0~1.5	GL-1.8mで近世層上面、-1.3°C 小巨層	◎
	津島南 BD-BF22	農場	有機物処理整備	1.1~1.4	造成土内	◎
	津島北 AY-AZ14 AZ13-AX-AY16	文部 経	料内街灯設置	1.0~1.1	造成土内	◎
	津島南 BC-BK-BH12	事	南北追跡坑設置	1.5	GL-1.4mで古代層確認	◎
	平田山 AI03	港	高川鉄筋混コン排水渠設置	0.4~0.7	GL 0.1m°C地山	◎
	平田山 AM09, AM12~13	農	自然教育研究林内排水整備	0.4~0.8	GL-0.1~0.2mで地山	◎
1992	津島南 BD18~19	港	透析子実験施設ハンマホール設	0.7~1.5	GL-0.75m~ 1.1明治層上面 繩文後期剥離まで、溝2本検出	◎
	津島南 BD18	港	透析子実験施設換換配線工事	0.95	明治層上面まで	◎
	津島南 BG12	事	飯投電柱設置	0.2	GL 1.9mで明治層上面	◎
	奥日 BK65, BL~BC66 BK67~72, 34~34T	ア	アイストーブセント・美水机、 ヒューム管設置	0.5~1.5	GL 0.9mで明治層上面、中世溝1 繩文後期剥離まで、溝2本検出	◎
	津島北 BH10	事	実験管理センター付近樹木移植	0.6~0.8	GL-1.0mで明治層上面	◎
	津島北 AV09	工	ボイラー系給水管改修工事	1.2	GL-1.1mで明治層上面	◎
	津島北 AV12	事	附瀬田宮原北側點火場設備	3.0	造成土厚さ1.7m、黑色土確認	◎
	津島南 BB-BD-BE12	事	下水道事業に則する地質調査	1.1~1.5	造成土厚さ1.1~1.4m、明治層まで	◎
	奥日 BS80~C181~87	工	動物実験施設西側埋填敷備	1.1~1.3	造成土厚さ1.1m、近世層まで	◎
	津日 C166	工	テレスコート猫窓修理設	1.2	造成土厚さ1.8m、古代土器1点	◎

※免掘・試掘調査については今てを、立会調査については主要なもののみを対象としている。  
文献番号は附表3・4に対応する。

附表3 埋蔵文化財調査室刊行物

番号	名 称	発行年月日
①	岡山大学構内遺跡調査研究年報1 1983年度	1985年2月28日
②	岡山大学構内遺跡調査研究年報2 1984年度	1985年3月30日
③	岡山大学津島地区小橋法日黒遺跡(AW14区)の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第1集	1985年5月7日
④	岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ(農字部構内BH13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊	1986年3月31日
⑤	岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度	1987年3月31日
⑥	岡山大学構内遺跡調査研究年報4 1986年度	1987年10月31日

附表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物

番号	名 称	発行年月日
⑦	鹿田遺跡 I 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第3冊	1988年3月31日
⑧	岡山大学構内遺跡調査研究年報5 1987年度	1988年10月31日
⑨	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第1号	1988年10月
⑩	鹿田遺跡 II 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第4冊	1990年3月31日
⑪	岡山大学構内遺跡調査研究年報6 1988年度	1989年10月14日
⑫	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第2号	1989年8月
⑬	〃 第3号	1990年2月
⑭	岡山大学構内遺跡調査研究年報7 1989年度	1990年11月20日
⑮	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第4号	1990年7月
⑯	〃 第5号	1991年3月
⑰	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号	1991年8月
⑱	岡山大学構内遺跡調査研究年報8 1990年度	1991年12月10日
⑲	津島岡大遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第5冊	1992年3月31日
⑳	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号	1992年3月
㉑	岡山大学構内遺跡調査研究年報9 1991年度	1992年12月21日
㉒	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号	1992年8月
㉓	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第9号	1993年3月
㉔	鹿田遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第6冊	1993年3月31日
㉕	岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度	1993年12月20日
㉖	津島岡大遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第7冊	1994年3月31日
㉗	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第10号	1994年3月
㉘	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第11号	1994年10月

## 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

### 1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定

#### (設置)

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）に岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下センターといふ。）を置く。

#### (目的)

第2条 センターは、本学の敷地内の埋蔵文化財について、次の各号に掲げる業務を行い、もって埋蔵文化財の保護をはかることを目的とする。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理および保存に関すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告の作成に関すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

#### (センター長)

第3条 センターにはセンター長を置く。

2 センター長は、専門的知識を有する本学の教授の中から学長が命ずる。

3 センター長は、センターに関する業務を処理する。

4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

#### (調査研究室)

第4条 センターにセンターの業務を処理するため調査研究室を置く。

2 調査研究室に室長、調査研究員及びその他必要な職員を置く。

3 室長は、専門的知識を有する本学の教官の中から学長が命ずる。

4 室長は、センター長の命を受け、センターの業務を処理する。

5 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

6 調査研究員及びその他の職員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。

#### (調査研究専門委員)

第5条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るため、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。

2 専門委員は、本学の教育の中から学長が命ずる。

3 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

#### (管理委員会)

第6条 本学に、センターの管理運営の基本方針を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

2 管理委員会に関する規定は、別に定める。

#### (運営委員会)

第7条 センターに、センターの運営に関する具体的な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規定は、別に定める。

#### (事務)

第8条 センターの事務は、施設部企画課において処理する。

#### (難則)

第9条 この規定に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、学長が定める。

#### 付則

1 この規定は、昭和62年11月26日から施行する。

2 この規定施行後最初に任命されるセンター長、室長および専門委員の任期は、第3条第4項、第4条第5項及び第5条第3項の規定にかかわらず、昭和64年3月31日までとする。

#### ○設定理由

岡山大学の敷地内の埋蔵文化財の発掘調査などの業務を行い、もって埋蔵文化財の保護を図るために、学内施設として、新たに岡山大学埋蔵文化財調査研究センターを設置すること及びその組織等必要な事項について定めるため。

## 2 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規定

### (趣旨)

第1条 この規定は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定（昭和62年岡山大学規定第48号）第6条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (審議事項)

第2条 管理委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針その他重要な事項を審議する。

- 一 学長
- 二 各学部及び教養部長
- 三 自然科学研究科長
- 四 資源生物研究所長
- 五 附属図書館長
- 六 各附属病院長
- 七 地球内部研究センター長
- 八 学生部長
- 九 医療技術短期大学部主任
- 十 事務局長
- 一一埋蔵文化財調査研究センター長

### (組織)

第3条 管理委員会は次の各号に掲げる委員で組織する。

#### (委員長)

第4条 管理委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、管理委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外のものの出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外のものの出席をもとめ、その意見を聞くことができる。

(幹事)

第6条 管理委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(庶務)

第7条 管理委員会の庶務は、施設部企画課において処理する。

附 則

この規定は、昭和62年11月26日から施行する。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針等を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会に関し、必要な事項を定めるため。

## 3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規定

### (趣旨)

第1条 この規定は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定（昭和62年岡山大学規定第48号）第7条第2項に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (審議事項)

第2条 運営委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する具体的な事項を審議する。

### (組織)

第3条 運営委員会は、次の号に掲げる委員で組織する。

- 一 埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）
- 二 本学の教授にうちから学長が命じた者若干名
- 三 センターの調査研究専門委員から学長が命じた者1人
- 四 センターの調査研究室長
- 五 施設部長

2 前項第2号に任期は、1年とし、再任を妨げない。

## 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

### (委員長)

- 第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
  - 2 委員長は、運営委員会を召集し、その議長となる。
  - 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。
- (委員以外の者の出席)
- 第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求める。その意見を聞くことができる。

### (庶務)

- 第6条 運営委員会の庶務は、施設部企画課において処理する。

### 附 則

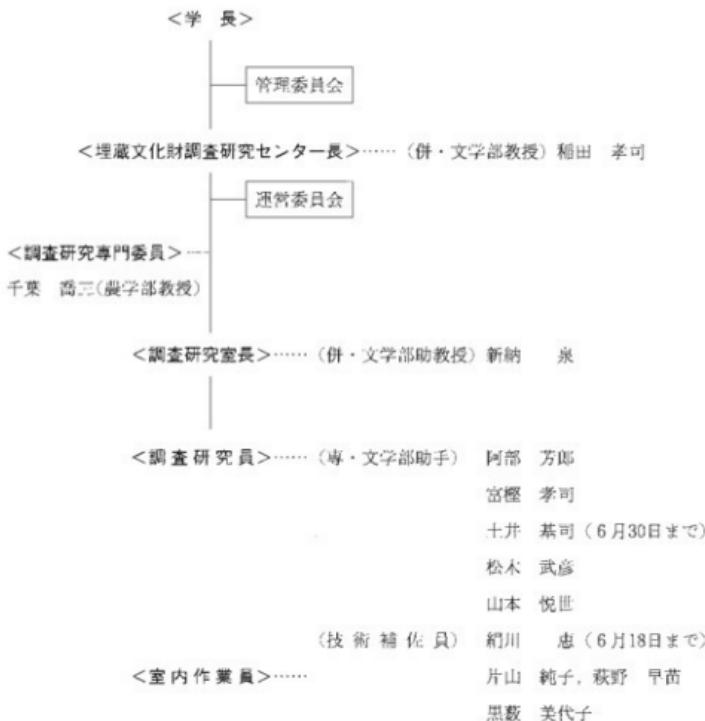
- 1 この規定は、昭和62年11月26日から施行する。
- 2 この規定施行後最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、昭和64年3月31日までとする。

### ○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの運営に関する具体的な事項を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財センター運営委員会に関し、必要な事項を定めるため。

## 1993年度埋蔵文化財調査研究センター組織

## 1 センター組織一覧



## 2 管理委員会

## 委 員

学 長	小坂二度見	教養部長	岡部 喬
文学部長	上藤進忠郎	文化科学研究所科	古川 隆夫
教育学部長	伊澤 秀面	自然科学研究所研究科長	早津 彰哉
法学部長	江口 三角	資源生物科学研究所所長	兼久 勝夫
経済学部長	神立 春樹	附属図書館館長	好並 隆司

## 1993年度埋蔵文化財調査研究センター組織

理学部長	岩見 基弘	医学部附属病院長	松尾 信彦
医学部長	新居 志郎	歯学部附属病院長	松村 智弘
歯学部長	中後 忠男	地球内部研究センター長	本間 弘次
薬学部長	田坂 賢一	学生部長	松浦 正義
工学部長	河野伊一郎	医療技術短期大学部長	喜多嶋康一
農学部長	河津一儀	事務局長	伊藤 公祐
埋蔵文化財調査研究センター長 稲田 孝司			

### 幹 事

庶務部長	山口健太郎	施設部長	北原 貴賓
------	-------	------	-------

### 審議事項

1993年5月26日 1992年度埋蔵文化財センター・調査研究センターの決算について  
1993年度埋蔵文化財センター調査研究センターの予算（案）について  
1992年度事業経過について  
1993年度事業計画について

### 3 運営委員会

#### 委 員

文学部教授	稲田 孝司（センター長）	農学部教授	千葉 喬三（調査研究専門委員）
文学部教授	狩野 久	教養部教授	定林 篤明
教育学部教授	高重 進	文学部教授	新納 泉（調査研究室長）
医学部教授	村上 宅郎	施設部長	北原 貴賓（施設部長）

### 審議事項

1992年4月28日 1992年度埋蔵文化財センター調査研究センターの決算について  
1992年度埋蔵文化財センター調査研究センターの活動報告について  
1993年度埋蔵文化財調査研究センター予算（案）について  
1993年度事業計画（案）について

1993年8月5日 1993年度事業計画について

1993年2月3日 附属図書館埋蔵文化財発掘調査について  
1993年度予算の返金について  
技術補佐員の採用について

附 編

津島岡大遺跡第5次調査出土の堅櫛の塗膜構造および  
鹿田遺跡第3次調査出土の刀子柄の保存処理について

岡 田 文 男

はじめに

津島岡大遺跡および鹿田遺跡は沖積平野上に立地し、現在までの発掘調査により多数の木製遺物が出土している。今回は津島岡大遺跡第5次調査で出土した縄文時代後期中葉の堅櫛の塗膜構造と、鹿田遺跡第3次調査で古墳時代の井戸から出土した木製の柄のついた刃子の保存処理について報告する。

1 津島岡大遺跡第5次調査出土の堅櫛の塗膜構造について

堅櫛（図17）の製作技法を明らかにするため、塗膜構造の顕微鏡観察を行った。分析資料は堅櫛から剥落した塗膜片である。

方 法

試料の大きさは約 $2\text{ mm} \times 3\text{ mm}$ で、それをさらに3分割してエポキシ樹脂に包埋して研磨し、落射光および透過光で塗膜構造の観察を行った。

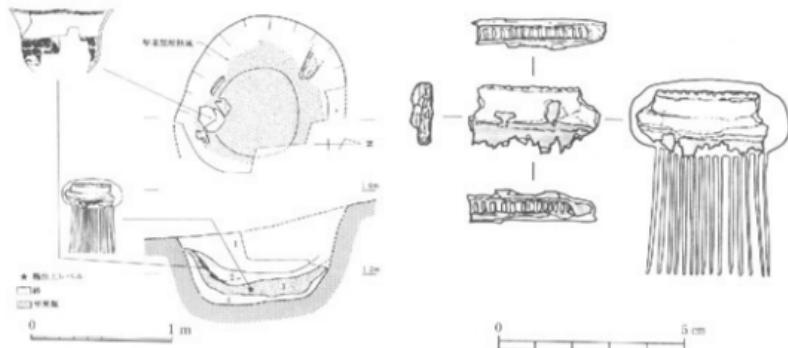


図17 津島岡大遺跡第5次調査出土の堅櫛とその出土状態

## 塗膜断面の観察結果（巻頭カラー写真図版2-A・B・C）

透過光による塗膜断面の観察結果を示す。塗膜の下部に黄褐色を呈し、層中に透明鉱物や土が含まれる、いわゆる地粉漆層がある（a層）。a層は下地に相当し、その上面には起伏がある。ついでa層の上にa層の起伏をならすように黄褐色を呈する透明な層がある（b層）。b層の上に、剝離した空間をはさんで赤色顔料を含む層が2層ある（下からc層とd層）。c層とd層の境界はやや分かれにくいが、赤色顔料はどちらも辰砂で、d層中の辰砂の粒径は最大で約5μmである。C層の辰砂はそれより細かい。

## 2 金属部分が残存する刀子の柄の保存処理

金属部分が残存する刀子の柄（図18）の保存処理を行った。金属部分が残ることから保存処理方法として水を用いない高級アルコール法を採用した。処理方法は以下の通りである。

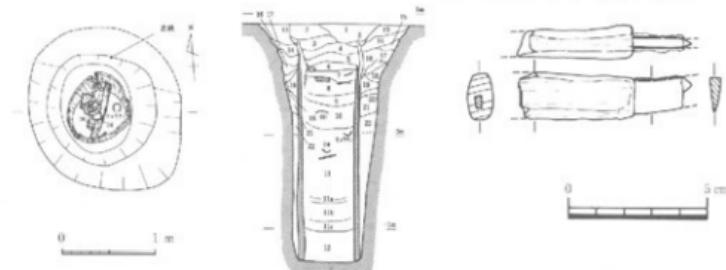


図18 鹿田遺跡第3次調査出土の刀子とその出土状態

## (1) 脱水処理と脱水終了の確認

遺物をメタノールにつけて脱水処理を行い、液を数回交換した後、キシレンを滴下して脱水の確認を行った。

## (2) 高級アルコールの含浸

刀子の柄が広葉樹であることから、セチルアルコール（融点49℃）を用い、アルコールの含浸開始濃度を20%とし、保温条件（55℃）のもとで順次濃度を上げて最終的に100%濃度にして取り出した。

## (3) 表面処理

木材部分についてのみアルコールで洗浄した。

注1『津島廻大遺跡』4 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター-1994

2 『鹿田遺跡』3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター-1993

付記 図2の刀子実測図は「鹿田遺跡」3に掲載した実測図に加筆したもので、その作成には岡山大学埋蔵文化財調査研究センター調査研究員の松木武彦氏の手を煩わせた。

1995年2月28日 印刷  
1995年2月28日 発行

岡山大学構内遺跡調査研究年報11 1993年度

編集 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
岡山市津島中3丁目1番1号  
(086)251-7290

印刷 西日本法規出版株式会社  
岡山市高柳西町1-23  
(086)255-2181(代)